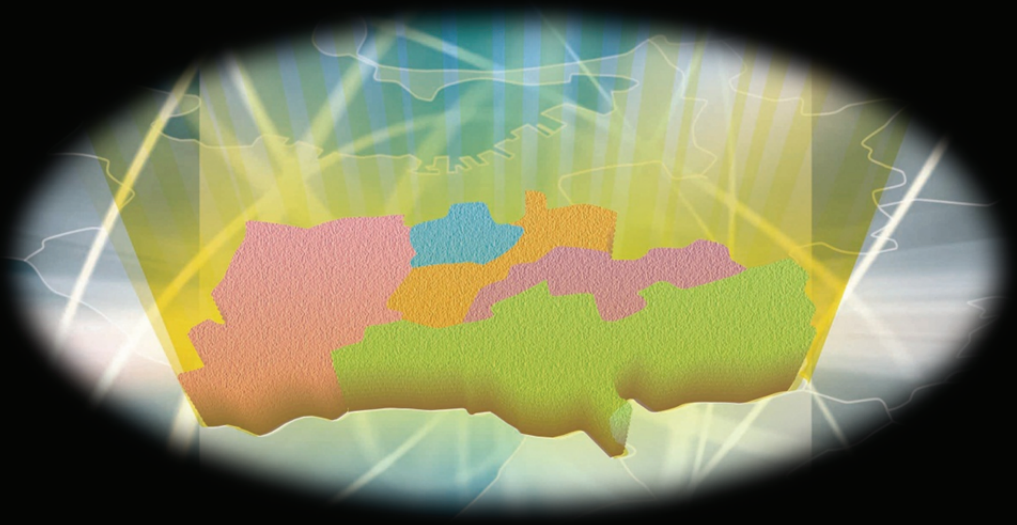
2012 年度　社団法人つくし青年会議所

# つくし未来構想

～きょういく（教育・共育・郷育）の推進に向けて～



JCI™

# Index


はじめに

第１章　2012 年筑紫地区概況

第１　筑紫野市概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p3
第２　春日市概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p8
第３　大野城市概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p11
第４　太宰府市概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p15
第５　筑紫郡那珂川町概況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p19

第２章　地域との歩み

第１　自然と歴史と人間の調和・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p23
第２　九州国立博物館との歩み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p26
第３　つくし青年会議所が行った事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p28

第３章　「きょういく」の推進

第１　設立４０周年運動方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p34
第２　つくし青年会議所の公益を目的とする事業の概要・・・・・・・・・・・p37

第４章　地域の未来を見据えて

第１　つくし青年会議所が目指すもの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p41
第２　つくし未来構想　～描こう夢のつくし、そして繋げよう未来へ～・・p42

第５章　つくしまちづくり資料

筑紫野市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p47
春日市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p49
大野城市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p51
太宰府市・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p52
筑紫郡那珂川町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・p54

おわりに

# はじめに

社団法人つくし青年会議所は、昭和 47 年「自然と歴史と人間との調和　つくしは一つ」をスローガンに全国 521 番目の青年会議所として産声を上げ、昨年で 40 年という節目の年を迎えました。当時、旧筑紫郡から筑紫野市・春日市・大野城市の三市が単独市制施行として誕生し、各地相互間の交流がこれ以上疎遠にならぬ様、そして 1300 年を越えるつくしの悠久の歴史と文化と自然を受け継ぎながら、「つくし」らしい明るい豊かな社会の実現を理想として設立されました。

以来、先輩諸兄が崇高なる志と熱い情熱をもって展開してきた運動や活動のもと行ってきた数々の事業を振り返ってみると、それはどのような「まちづくり」や「ひとづくり」であったのでしょうか。言うまでもなく「つくし」の地は、悠久の歴史を有し、文明のクロスロードと表される程の文化に溢れ、豊かな自然環境に恵まれた土地柄です。このような素晴らしい歴史と郷土を脈々と繋いできた先人の想いを受け継ぎ、その時代を預かる青年がその先人の想いを今の時代に求められる「かたち」で甦らせ事業を展開してきたのです。

41 年目を迎えたこれからも、30 年、50 年、いや 100 年先のこの地域の未来の姿を見据え、この地に住む多くの人々が行政や企業と一緒になって、その原点を見つめ直し、このまちの自然や歴史、文化と共に共生し、大いなる夢を描き、それを熱く語り行動に移すことの出来る人財に青年会議所メンバーがなり、広く地域の皆様に発信し、共に輝かしい未来へと歩んでいく精神を養う一助にこの「つくし未来構想」がなれば幸いです。

世を動かすには、先ずは己の変革から
己が変わらずして、他人は変わることなく、ましてや世の中は変わらない。
「為せば成る　為さねばならぬ何事も　成らぬは人の為さぬなりけり」

こころは一つ　輝かしい未来へ共に歩んで参りましょう。

社団法人つくし青年会議所
第 41 代理事長
松大路 信潔

# 第１章　2012 年筑紫地区概況

社団法人つくし青年会議所

筑紫野市･春日市･大野城市･太宰府市･那珂川町

## 第１　筑紫野市概況

湯の原に　鳴く葦田鶴は　わがごとく
妹に恋ふれや　時わかず鳴く

～湯の原で鳴いている鶴は、私のように、亡き妻を恋い慕うのであろうか。鳴きどおしに鳴いている～　奈良時代初期の歌人大伴旅人が詠んだ歌とされています。

筑紫野市は古くから温泉が湧出する湯の町「二日市温泉」として有名であり、約 1350 年前に藤原虎麻呂によって開湯されたと伝えられています。「博多の奥座敷」とも呼ばれ、黒田藩御用達の温泉であり、万葉の頃は大伴旅人や、山上憶良、近代では夏目漱石や高濱虚子など、数多くの文人墨客が湯治に訪れた由緒正しき古湯です。

また、九州最古の仏蹟である武蔵寺、朱雀大路、五郎山古墳等、数多くの文化財、史跡が残されている地域です。

人口は約 10 万人で、市域は約 87.78 ㎢で東西 15.6 ㎞、南北 14.1 ㎞に広がる市形と

なっています。福岡県の中央部やや西よりに位置し、その市域の南西部は佐賀県に接しています。佐賀県との県境付近は脊振山系山地にあたり、基山・権現山などの山があり、北東部から東部にかけての飯塚市との境界付近は三郡山系山地にあたり、宝満山・三郡山など標高 800～900m 級の山がそびえています。

主な公共交通機関として、西鉄二日市駅（西鉄天神大牟田線）・JR 二日市駅（JR 鹿児島本線）があり、いずれも福岡市の中心部から約 15 分程度の所要時間で到着することができるほか、九州自動車道・都市高速道路等、筑紫野市は福岡県の交通の要衝地として位置付けられています。また、税務署、法務局、警察署等筑紫地区の行政機関が集結しており、大型商業施設、大型総合病院も存在していることから、前述の交通面とあわせて鑑みても充実したインフラと利便性の良さを兼ね備えている地域であるといえます。

一方、新興住宅地を除き歴史的に古い街並みがそのまま多く残っているため、道路幅員が非常に狭い箇所や、入り組んだ複雑な地形の箇所が多く見受けられるほか、二日市の中心部等は古くからの地元地権者が多く、まちの新陳代謝という意味では遅れているといえます。また、行政の市街地再開発事業がその端緒についたばかりで、そのまちづくりに関しては未だ明確なグランドデザインが示されていません。どのような街並みを描くのか、行政主導のまちづくりが望まれます。

最後に筑紫野市市民憲章をご紹介します。

「筑紫野市市民憲章」

筑紫野市民のことば

歴史に培われ　伝統に支えられながら　生き生き発展する筑紫野市民は自負を持つて次のことばをさだめます

一　緑と太陽のまち　健康で明るいまちをつくりましよう

一　人を愛し　敬い　平和なまちをつくりましよう

一　教育を重んじ　文化の薫り高いまちをつくりましよう

一　勤労を尊び　生産を高めるまちをつくりましよう

一　力を合わせて　幸せな生活を営めるまちをつくりましよう

（昭和４７年１０月１日制定）

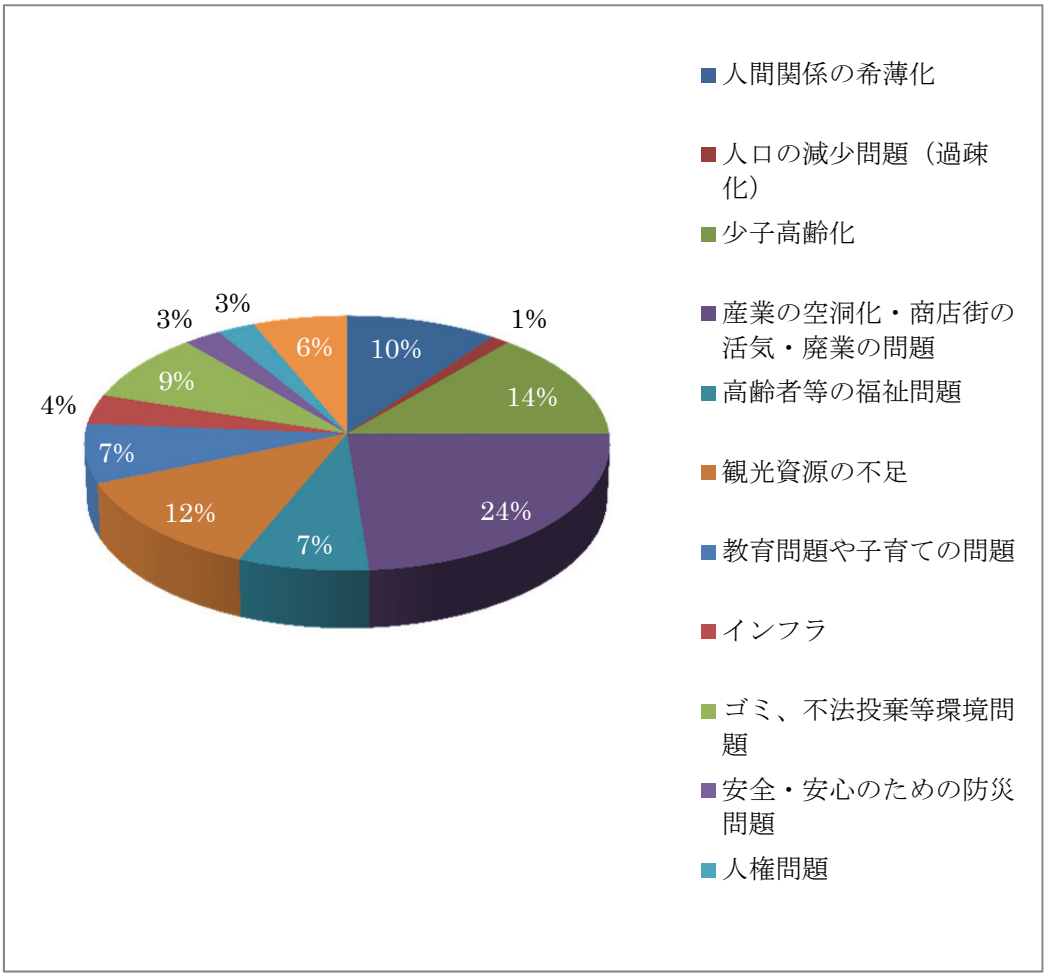
■メンバーアンケート・筑紫野市の課題と特長について

筑紫野市を本拠とするつくし青年会議所メンバーが比較的多いため、他市町に比べて回答を多くいただきました。このグラフから筑紫野市の課題と特長を考察した場合、筑紫野市には豊かな自然と深い歴史があり、ＪＲ・西鉄・高速道路といったインフラも比較的申し分なく、何より「二日市温泉」という一級の観光資源がありながら、これを活

かしきれていないというように感じます。このことが産業や商店街の空洞化、衰退の一因になっているのかもしれません。

街並みや景観、その他課題に取り組んでいくためには、行政の協力が必要不可欠でありますが、地域の特長を最大限発揮するためには、その前に住民が一体となって運動していかなければならないのではないでしょうか。まちとしての「のびしろ」はまだまだあると考えているメンバーが多くいますので、つくし青年会議所は、地元のオピニオンリーダーとして、地域住民とともに様々な発信をしながら、地域の発展に寄与していく必要がありそうです。

（１）筑紫野市の課題




【筑紫野市の課題に関する具体的なご意見】

・まだまだこれからの土地であると思いますので、発展性もあると思っています。

・二日市温泉等の観光施設がありますが、福岡県内の人にあまり知られていない等、周知が足りないと思います。二日市の商店街も駅近くにありますがイオン等の大型商業施設におされているという印象があります。大型商業施設と地域密着の商店街のすみ

分けが出来たらよいのではないでしょうか。

・温泉を売りにしている割には，テーマを持った絵になる温泉街並みの整備がなされていないように思います（門司港レトロのような、「街並み＝観光資源」のイメージ）越えるべきハードルは多々あるとは思いますが、思い切った区画整理等を行う必要がありますが、温泉街そのものを温泉テーマパークのようにできれば面白いのではないでしょうか。

・観光資源の不足というのは、隣の太宰府市と比べた印象ではないでしょうか。年間訪れる多数の観光客（外国人･修学旅行生等含む）をどうにか筑紫野市にも立ち寄っていただけるようにできないものでしょうか。例えば二日市温泉街を再整備（大型駐車場、道の駅、観光客向けの大型温泉施設の設置、区画整理、道路拡幅等）する等。産業については様々な業種において地場産業の衰退化が見受けられるような気がします。

・太宰府ばかり注目されて、最寄りの温泉街にもかかわらず、どんどんさびれていっているように思います。

・行政の対応が重要課題だと思います。ＪＣの活動の中で、行政を動かす活動・運動ができるかどうかは、分かりませんが・・。

・少子高齢化への市としての取り組みが殆どなされていないように思われます。

・商店街内店舗に空きが多く見られます。これは利用者・経営者が減っている等、全国共通の問題点です。すでにライフスタイルが変わり、“商店街での買い物”というスタイルに合致していないので、商店街の全く違う利用方法を考える必要があると思います。

・山神ダム上の産廃処理場の問題も放置されたままになっています。

・大型郊外店の進出やインターネットでの通販などにより、地元商店街の衰退が起こり、昔からあった密着してお互いの家庭環境を知る機会が減ったことで、人間関係が希薄になっていると思います。

・地産地消や地元の活性化委の為に、地元での買い物を推進することも必要ではないでしょうか

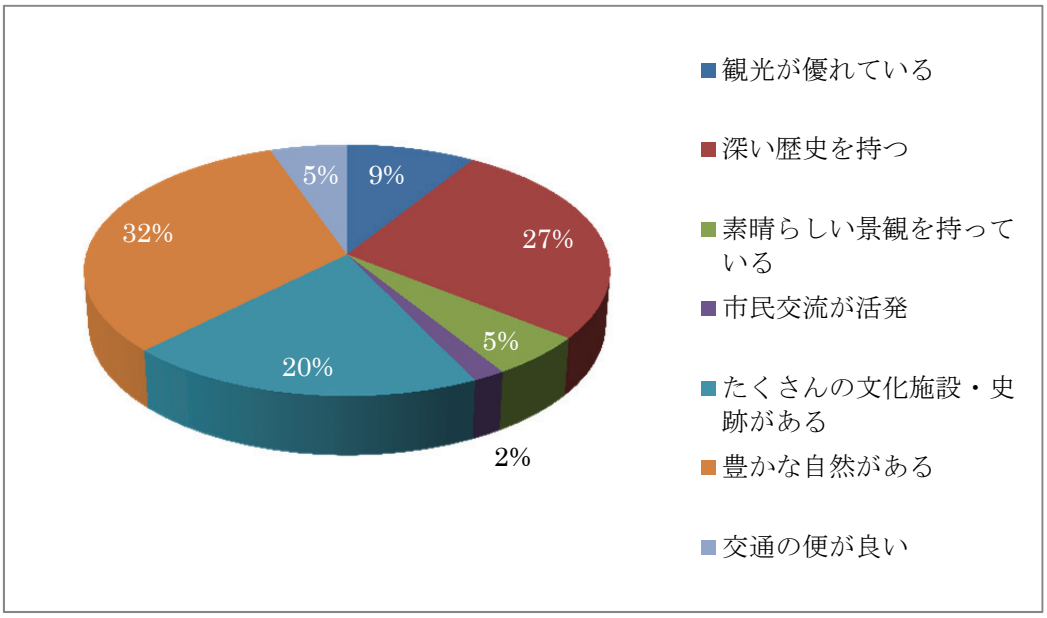
・それぞれのお店と商店街の努力不足もあると思います。

・家庭・学校・地域が連携した教育の推進が必要だと思います。

・人口が一定程度いる割には裁判所の支部や家庭裁判所が付近になく、司法へのアクセスが悪いと思います。

・筑紫野市自体の人口は増えていますが、それは原田エリア等一部のニュータウンの開発に起因するものであり、中心地や人気エリア以外の地域の衰退、過疎化は著しく、地価の下落も顕著になっています。商店街の活性化も改善する見込みは極めて低く、行政と協力して区画整理等をしなければ、状況を打開することが非常に困難なのではないでしょうか。

（２）筑紫野市の特長




【筑紫野市の特長に関する具体的なご意見】

・天神、博多のいずれにも電車で３０分圏内の地でありますが、豊かな自然が残された適度に都会・適度に田舎の街であると思います。そのような立地を生かして、子育て世代を招き入れるだけでなく、カナダのバンクーバーのようにリタイアした方々が終の棲家として移住してこられるような都会と自然が共生する心癒されるまちづくり・インフラ整備をやってもらいたいと考えています。

・面積が広く、山間部が多いため、多くの自然があります。近年、産廃処理施設等の問題があり、開発も必要だと思う一方、将来のこの地域のために、豊かな自然をできるだけ残して欲しいと思っております。また、交通の便に関しては大変恵まれていると思います。高速道路はＩＣがあり、鳥栖ＪＣＴも近く、鉄道も主要駅（快速が止まる等）が設置されているからです。

・１０万人を擁す市になっており、市の土地面積が大きいため、今後も人口増加を見込むことはできると考えます。また、古くからの天然温泉があるため他の市町村との違いを明確に打ち出すことはできるのでは。

・史跡などで知名度の高さは悪くないと思いますが、知名度に関しては“太宰府”が飛びぬけており、他の３市１町は残念ながら、“その他大勢”でしかないのかもしれません。「太宰府天満宮とか、九州国立博物館とか、たくさんの史跡とか、あの“筑紫郡”には色々あるよね。」とは言われていない気がします。

・太宰府市以外の近隣市町に比べ、観光資源が多くありますが、同時にこの観光資源があまり活かされていないように感じます。紫プロジェクト等をはじめ、少しずつ機運が高まりつつあるのかなとも思いますが、地域を盛り上げようと考える市民意識の向

上がまだまだ他市町に比べても希薄なのでは。
・大宰府の発展とともに条坊制の中で栄え、関連する史跡や歴史は非常に多く、もっと連携していくことが必要だと思います。
・少し車で郊外に出ると自然豊かな地域が多数あり、いい意味で住みやすい地域ですが、もっと対外的にアピールすることで、人口増加に繋がると思います。
・史跡や自然等、観光資源は福岡県の中でも特に優れていると思います。
・筑紫野市には「二日市温泉」という観光資源がありながら、各温泉所有者の協力が乏しいが為に、現在のような雑然とした魅力に欠ける温泉街になっています。二日市温泉は天然ラジウム泉であり、泉質には定評があるだけに残念です。温泉協同組合と行政が一体となって改革していくことができればいいのですが、現実的には難しいのかもしれません。

## 第２　春日市概況

春日村にあり

村の名前も此神社あるによりて名つけたり

「筑前続風土記」の「春日神社」の項にはこのように記されています。「春日」の地名は春日神社に由来し，７６８年藤原氏の氏神である春日大明神を大和国からこの地に迎え入れのが、今日の春日神社が創建とされています。

春日（カスガ）はもともと「ハルヒ」と読まれていたのが，「ハルヒ（春日）がカスム」「春霞がカスム」という枕詞から，次第に「カスガ」と読まれるようになったと言われています。カスガの意味については、霞処（かすみが）や、神住所（カスカ）、砂れき地のことを指すなど諸説あるようです。

そして、春日市には古代「奴国」の中心地であったという歴史考証が存在しており、同市にある奴国の丘歴史公園の名称もこのことに由来しています。市北部にある須玖・岡本遺跡からは奴国にまつわるとされる遺跡が数多く発見されており、同公園内にある奴国の丘歴史資料館に数多くの出土品が展示されています。また、市西部では古墳時代の遺跡も発掘されています。

このように深い歴史と浪漫がある春日市ですが、福岡市に隣接していることから、福岡都市圏の一角として、福岡市の発展に伴いベッドタウンとして都市化が進んでいる地

域でもあります。福岡県内で一番面積の小さな市であり、市域は東西４㎞、南北 5.34 ㎞の菱形に近い円形をしており、面積は 14.15 ㎢となっています。福岡市の中心市街地までは 10km 程度の距離であり、人口密度は福岡県で最も高く、いわゆる首都圏、近畿圏の都市を除けば那覇市に次いで第 2 位のまちです。人口は福岡県内第 6 位であり、10 万人を超えています。

また、市内には大きな公園や子どもたちが気軽に遊べる児童遊園が数多くあり、休日などには、市民の憩いの場として、広く親しまれています。市長や市職員が地域と直接意見交換を行うなど、市民のニーズに合わせた行政サービスが生まれる背景があるほか、子育て支援やコミュニティーバスの運営が充実しているので、子どもたちや高齢者に優しい住みやすいまちと言えます。

一方、前述のとおり福岡市のベッドタウンとして、転勤族や他地域からの移住者が増えたせいか、近年春日市に馴染みの薄い市民が多くなっており、春日市の歴史や文化に対する意識の低さや行政に対する関与が消極的であることが課題としてあげられます。

最後に春日市市民憲章をご紹介します。

「春日市市民憲章」

春日市民のことば

わたくしたちは　いつまでも若い春日市をねがい　歴史と伝統を守り　美しい心のふるさとづくりのため　次のことばを定めます

一、豊かな緑と人の和あふれる　文化のまちをつくりましょう

一、教養をたかめ個性ある心豊かなまちをつくりましょう

一、たがいに助け合い希望と福祉のまちをつくりましょう

（昭和５２年１０月制定）

■メンバーアンケート・春日市の課題と特長について

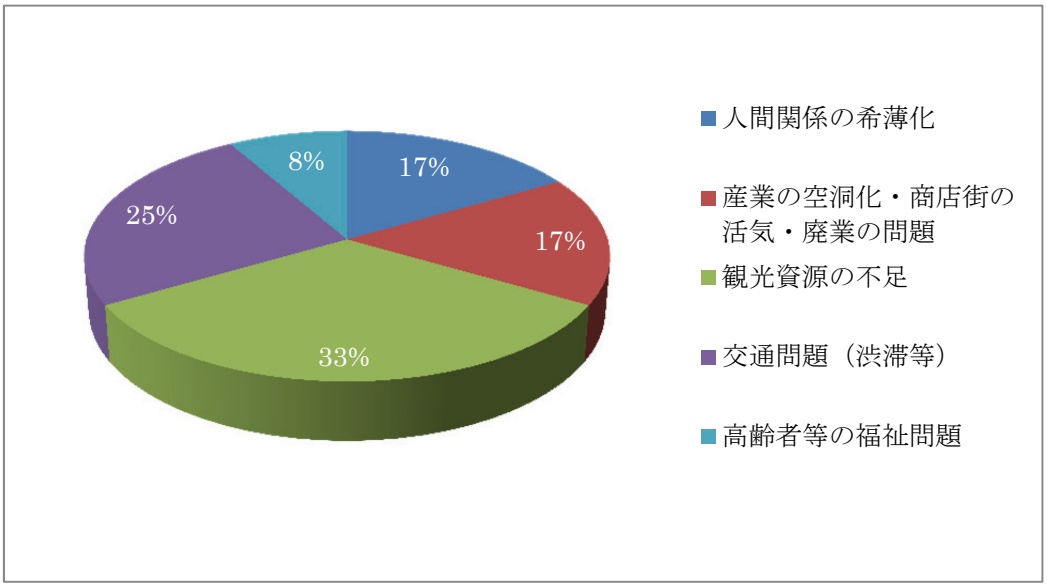
春日市は住みやすいまちというイメージがあるようです。また、教育や福祉、文化や歴史といったまちの特長がバランスよく分散していることが理由なのかもしれません。しかし、そのせいか、福岡市のベッドタウン化が４市１町の中で一番顕著であり、「夜寝るだけの場所」というのが、近年の小規模事業者の廃業、産業の空洞化、商店街の活気不足に繋がっているのでしょう。また、歴史的名所や史跡も決して少ないわけではないですが、観光資源の不足が課題として多く挙げられるのは、市民に対し、その素晴らしさを伝えきれていないこととこれを育て活かすところに辿りつけないジレンマを感じます。

地域の一員として、ともにまちを育てる。一人ひとりが自覚をもって実践していけば、

地域の特徴を適確に捉える事ができ、いつかは地域経済の衰退を改善できるかもしれません。その意識の芽を育てていくのもつくし青年会議所の役割なのです。

つくし青年会議所が設立４０周年に掲げた運動方針「きょういく（教育・共育・郷育）」を基にした「人財」の育成」という言葉を私たちは充分に理解をして、「ひと」と「まち」が車の両輪となった事業を推進していく必要があるでしょう。

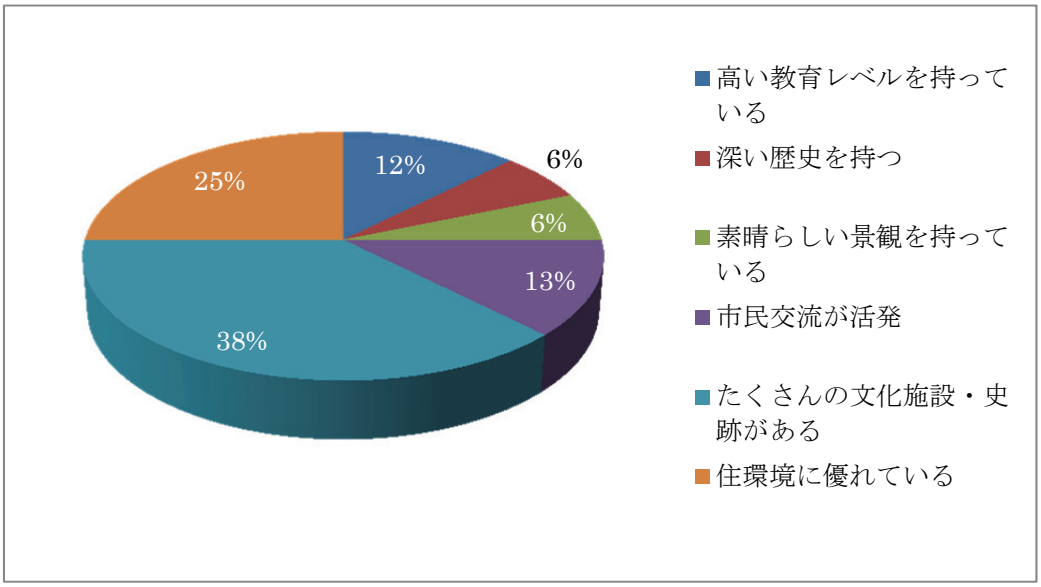
（１）春日市の課題




【春日市の課題に関する具体的なご意見】

・小規模事業者の廃業に関しては深刻な状況にあるため、今年度より他の団体にて新たな取り組みを始めています。筑紫野市、太宰府市と違って春日市には観光課がないため、商店街の活気を上げるには独自で取り組むしかないと考えました。
・春日市の魅力が不明確なところがあります。４市１町の全てに言えることですが、何をするにしても、結局は単体の動きばかりで共通した動きがあればと思います。
・歴史的なものは多く存在しますが、上手くアピールできていません。
・筑紫野市、太宰府市と比較して、観光資源が少ないのではないでしょうか。
・福岡市への主要路線が通っているため、交通量が多いにもかかわらず、立ち寄るかたが少ないように思います。渋滞の原因にもなっています。
・福岡市のベッドタウンとなっています。

（２）春日市の特長




【春日市の特長に関する具体的なご意見】

・福岡市と隣接し、人口も多く、商業地域と住宅地域がうまく融合した地域だと思います。

・春日神社の婿押し祭りや地域住民に認知されている行燈祭りなど、地元に根差した行事が多いと思います。

・歴史的にも奴国の中心地といわれ、多くの史跡も存在する古代の中心地としての魅力があります。

・春日公園、サッカー場、球場が街中にあり、ケーブルテレビ局もあります。

・公園、コミュニティセンターも多く、福岡市へのアクセスがいいので住みやすい。

・４市１町の中でファミリー層に人気が高く、行政の福祉が手厚いです。

・西鉄春日原駅、JR 春日駅の都心部の地価は４市１町の中で一番高価です。

## 第３　大野城市概況

父母が頭かき撫で幸くあれて

いひし言葉ぜ忘れかねつる

～父母が別れ際に私の頭をかき撫でて無事でいろよと言って下さった言葉をどうにも

忘れることが出来ない～

663 年、朝鮮半島の百済救済のために出兵した倭軍が、唐・新羅連合軍に大敗しました。所謂「白村江の戦い」です。この戦いは「倭国」日本の国防・政治体制に多大な影響を及ぼし、結果、唐が攻めてくるのではないかという憂慮から、大宰府防衛のために「大野城」「水城」「基肄城」「長門城」等の古代山城が築かれました。大野城市という名称はこの古代山城のひとつである「大野城」（おおののき）に由来しています。

古代山城には東国から徴用された兵が配備されました。これが防人（さきもり）です。冒頭の歌は数多く残されている防人歌（さきもりのうた）のひとつであり、当時の防人の厳しさと悲しみを読み取ることができます。

当時の日本は「倭国」から「日本」への道へと歩み出そうとしていました。

大野城市は福岡市の南東隣に位置し、市域は約 26.82 ㎢で、東西約 6km、南北役 8.5km のひょうたん型をしています。中央部を鹿児島本線（大野城駅）、および西鉄天神大牟田線（白木原駅）が並行して貫いています。また、九州の交通動脈である国道 3 号も通っており、福岡都市高速道路や福岡空港にも近接していますので、交通の便も恵まれた地域となっています。

南部の牛頸山には豊かな緑を育んできた牛頸ダム周辺の生態系を生かし、「身近に自然に親しめるレクリエーション空間」として、キャンプや水遊び、スポーツ等も楽しめる大野城いこいの森があるほか、市制施行 20 周年の記念事業の一環として 1996 年に建設された多目的複合施設「大野城まどかぴあ」では様々な文化講座や演劇、コンサートの会場として利用されています。

しかし、近年は新興住宅地が展開し、他市町と同様に福岡市のベッドタウンによる人間関係の希薄化という問題を含んでいるようです。このほか歴史的には深い背景がありながら、太宰府市等に比べて知名度が低く、その資源を上手く活用しきれていないことも課題として挙げられます。

最後に大野城市市民憲章をご紹介します。

「大野城市市民憲章」

大野城市は、西暦 665 年水城大堤とともに築かれた我国最古の山城「大野城」にその名を由来し、古い歴史と豊かな自然に恵まれた緑のまちです。

わたしたち市民は、互いにまどかな心のふれあいを大切にしながら、たくましく発展する未来をめざして、ここに市民憲章を定めます。

一、自然を大切にし　緑と花でつつまれた　清らかなまちをつくりましょう。

一、郷土を愛し　きまりを守り　心豊かなまちをつくりましょう。

一、おとしよりをいたわり　こどもの夢を育て　あたたかいまちをつくりましょう。

一、スポーツに親しみ　人の和をひろめ　健康で明るいまちをつくりましょう。

一、働くことに喜びをもち　活気にみちたまちをつくりましょう。

（昭和５２年１１月２３日制定）

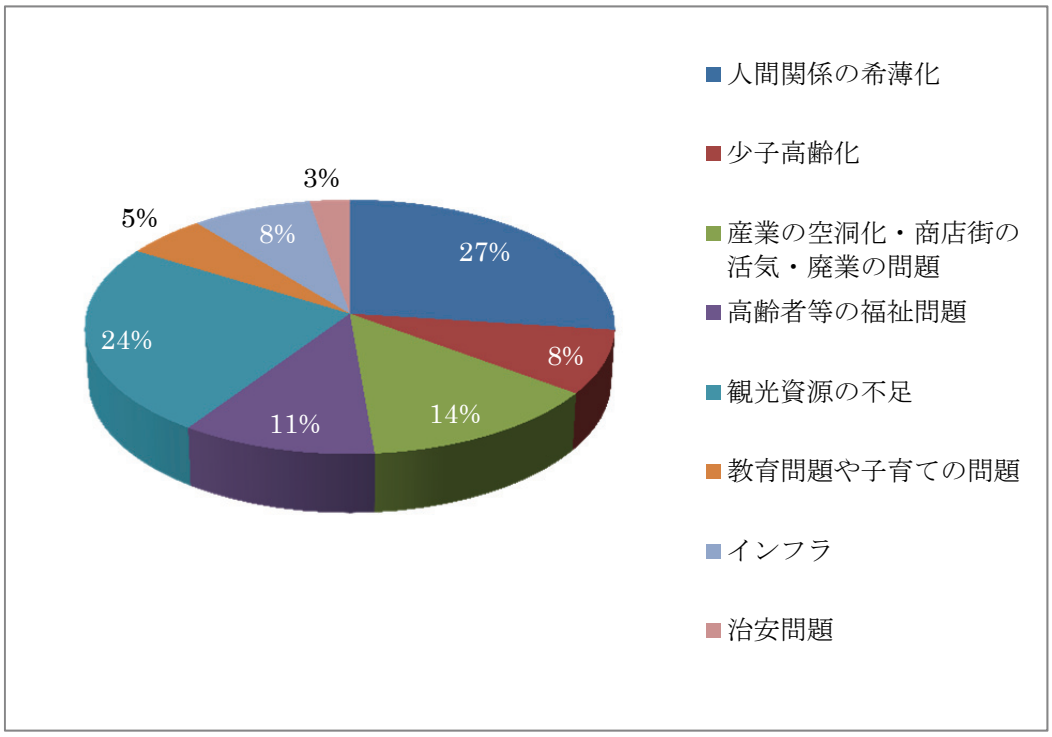
■メンバーアンケート・大野城市の課題と特長について

大野城市にはドラッグイレブンやマルキョウ、リョーユーパン等の大企業が本社を置き、その他事業所も多く、一部課題があるものの、このことが経済の活発に繋がっているようです。また、コミュニティセンターが多くあり、地域イベント等市民交流が盛んであることもアンケートから大野城市の特長として挙げられそうです。

一方、福岡市のベッドタウン化による人間関係の希薄とともに、かつての古代山城である水城・大野城がありながら、知名度が低く、歴史的遺産の活用という面で太宰府市等に後れをとっていることの原因に、市民に対するアピールのほか、市民がどのようにしてこの歴史的遺産を見て触れ合い、体感できるのかということにあるのかもしれません。

つくし青年会議所はこのことを踏まえて、自然と歴史と人間との調和という設立スローガンを忘れず、地域における自然と歴史的魅力のさらなる発信とそれをもって古くからの市民と新しい市民の架け橋としての役割を果たすための事業を展開することが求められるでしょう。

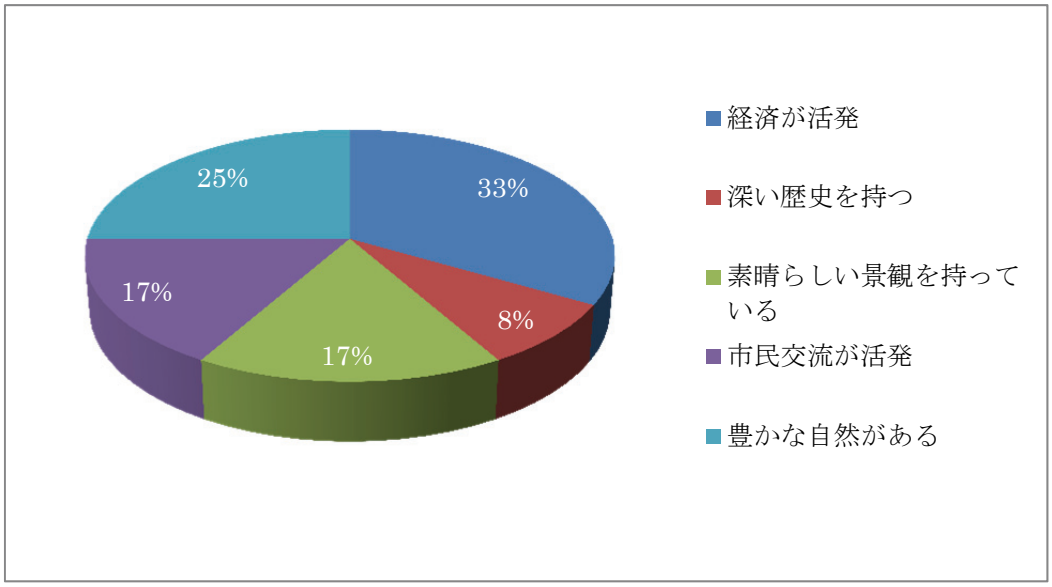
（１）大野城市の課題



【大野城市の課題に関する具体的なご意見】

・人の出入りが激しい地域でもあるので、地域社会の団結力がなく、犯罪発生率も上昇しています。
・観光資源については、大野城市にはメジャーな歴史遺産が不足しています。
・２０年前の商店街はもっと賑わっていました。郊外型ショッピングモールに客を奪われていると思います。
・近隣や地区のお付き合いが減少傾向にあるように思います。職住分離も一因なのではないでしょうか。
・教育問題として、高等教育に偏ってしまい、産業とのバランスが取れていません。
・観光資源については市との連携が必須だと思います。
・新興住宅開発による急激な人口増が著しいため、人間関係が希薄になっています。
・コミュニティ単位で地域交流イベントが行われているが、高齢者ばかりで世代間交流ができていない。若い世代の家庭は、共働きが多く地域に参加しにくくなっているように思います。若い世代にターゲットを絞った地域イベントがあってもいいのではないでしょうか。
・歴史的な要素も強いのですが、認知度は若干低いように感じられます。太宰府や他の地域との連携を行うことでもっと広がるはずだと思います。
・地理的に旧筑紫郡（4 市 1 町）の郡庁舎がおかれるなど、地域内の地理的中心地として展開できる要素が大きいと思います。
・春日市と大野城市と言われると、交通量の多さ「渋滞」という気持ちになります。そのため、春日・大野城を避けて移動することを心掛けることが多く、交通インフラの整理も必要なのではないでしょうか。

（２）大野城市の特長



【大野城市の特長に関する具体的なご意見】

・大野城市の地形がいびつで、ひとつの市としての経済地区としてまとまりを持ちにくいため、経済的に大野城市全体を盛り上げようといっても、どこが中心なんだという現状があります。経済的でなくても同様です。春日市役所と大野城市役所が隣接している点など、象徴的であると思います。
・ビジネスや買物へ行く福岡市内や、観光の太宰府天満宮、二日市温泉に近い立地。
・地域コミュニティを中心とした体育関係のイベントは、割と多い方であるように思います。ただし、人間関係の希薄化が解消されたと思えるほどのものではなく、この手のイベントに中心的に関与しているのは、基本的には同じメンバーばかりです。転勤族等地域に根付いていない層にはなかなか浸透していないようです。
・国道 3 号線と県道 121 号線の間にある工業地帯は地域内でも有数の規模を誇り、多くの優れた製品が作られています。
・居住区と産業エリアの区分がはっきりしている認識があります
・歓楽街があり、飲食店が他市より充実していると思います。

## 第４　太宰府市概況

大君の遠の朝廷とあり通ふ
島門を見れば神代し思ほゆ

～大君の遠く離れた政庁へと行き通い続ける海峡を見ると、神代の昔が思われる。～

飛鳥時代の歌人、柿本人麻呂がこのように詠んだように、万葉の時代「遠（とお）の朝廷（みかど)」とは、大宰府（オオミコトモチノツカサ）のことを指していました。かつて大宰府は九州の政治の中心地として奈良・飛鳥に比肩するもう一つの都であったのです。

外交、防衛、行政、司法等、「遠の朝廷」大宰府に与えられた権限は非常に大きいものでした。そのため、当時の時代背景等を考え併せて、この地を首都（倭京）とする九州王朝があったという俗説が生まれるほどでした。

「大宰府」と「太宰府」の表記の違いに関しては、昭和 30 年代末頃、九州大学の鏡山猛教授が地名や天満宮など以外は「大宰府」と表記するようにされたことをきっかけとして、一般には古代律令時代の役所、およびその遺跡については「大宰府」、中世以降の地名や天満宮については「太宰府」と表記されるようになったそうです。

人口は約 7 万人で、市域は南北 10.9km、東西 6.4km、面積は 29.58 ㎢、福岡県の中部、福岡市から南東約 16km の場所に位置しています。市域北部に四王寺山、市域東部に宝満山、市域西南部に天拝山（筑紫野市）があり、市の中央部を御笠川が横断して流れています。

太宰府市は観光産業が発達しており、大宰府政庁跡、水城跡、観世音寺、太宰府天満宮等、大宰府にまつわる数多くの史跡・名所が存在し、今も全国各地から観光客が訪れ親しまれています。また、太宰府天満宮をはじめ関係各所の熱意と努力により 2005 年 10 月 16 日、九州国立博物館が開館しました。我がつくし青年会議所も長年九州国立博物館の誘致運動に関わり、開館後も支援を続けています。

一方、市域西部・南部は福岡都市圏のベッドタウンとして住宅開発が進んでいます。そのためか数多くの魅力的な史跡・名所があるにもかかわらず市が実施したアンケートでは、伝統文化に触れる機会がほとんどないと回答した市民が５割以上に上っており、市民が日常的に伝統文化や歴史的風致に接する機会が少ないことが課題となっています。

このほか太宰府市の歴史的風致を構成する建造物に対する適切な修理修復と維持管理の問題や伝統行事や伝統文化の担い手の高齢化や減少等が課題としてあげられます。

最後に太宰府市民憲章をご紹介します。

「太宰府市民憲章」

〇豊かな歴史と文化を守り　郷土愛あふれるまちをつくりましょう。
〇生き生きとした自然を愛し　緑かがやくまちをつくりましょう。
〇教育を重んじ希望をはぐくみ　のびのびとした明るいまちをつくりましょう。
〇年寄も子供もみんなが助けあい　生きがいのあるあたたかいまちをつくりましょう。
〇働くことの尊さを知り　楽しく住みよいまちをつくりましょう。

（昭和５７年４月１日制定）

■メンバーアンケート・太宰府市の課題と特長について

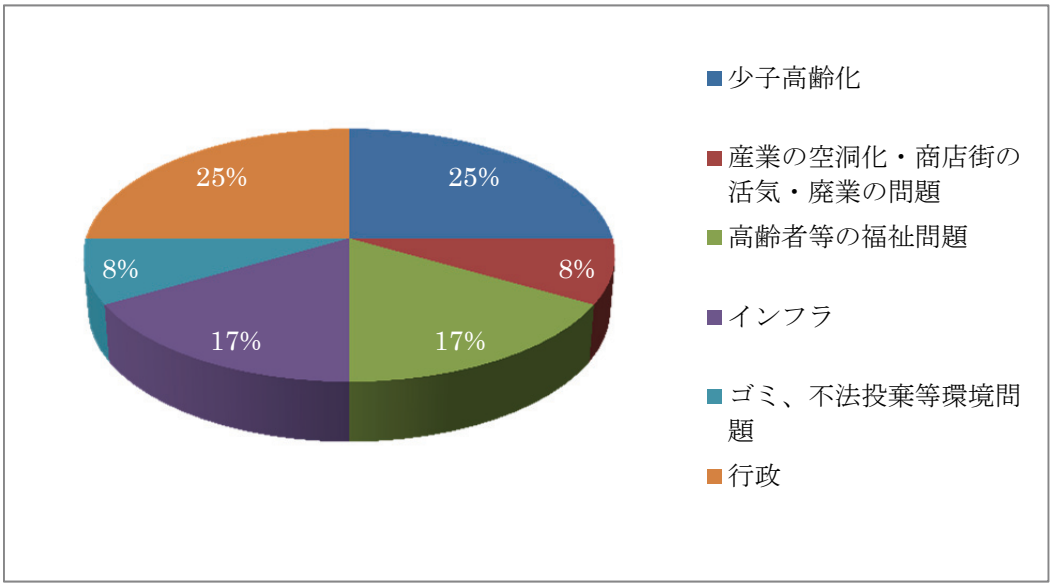
観光のまち、歴史のまち、学問のまち、太宰府市は他の３市１町に比べて、豊富な特長と資源を擁しています。特に学問の神「菅原道真公」と祭る「太宰府天満宮」は、全国的にも知名度が高く、知らない人はいないと言ってもいいほどです。まさに太宰府天満宮あっての太宰府市という感覚を持つ方々も少なくないでしょう。「太宰府天満宮」というソフトによって、ハードである「まち」が大きく発展した好例だと思います。しかし、反面、ひとつのソフトに頼り切りになってしまうと、それ以外の部分において成長を阻害してしまうというデメリットもあるのかもしれません。

つくし青年会議所は「積極的変化を求める」青年の集団として、古来からの伝統や文化を大切にしながらも今ある現状に満足することなく、不易流行の精神をもって、あらゆるまちの資源を活用しながら地域の発展、人財の育成に寄与していく必要があります。

さて、太宰府市は「歴史的風致維持向上計画」の認定を受けており、太宰府の歴史や文化を活かしたまちづくりに取り組んでいます。歴史的風致とは「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動とその活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境」のことをいいます。この歴史的風致の維持向上のために市町村が「歴史的風致維持向上計画」を策定し、国の認定を受けることにより、様々な措置や支援をすることができるようになります。

つくし青年会議所も景観、歴史、伝統、文化等、地域の歴史的風致を形成する様々な要素を支援し、活用していかなければならないことは言うまでもありませんが、４市１町の行政の枠を超えて、このようなまちづくりを考えられるのは複数自治体を活動エリアとするつくし青年会議所だけであり、かつその役目を担っているといえるのではないでしょうか。

（１）太宰府市の課題




【太宰府市の課題に関する具体的なご意見】

・行政が全体のバランスを考え、市民にとってまた市にとって良い方向になるように考えているかどうかが一番の問題であると考えております。インフラに関しては、正月時や土日祝日の渋滞の緩和を行政がどのように捉えているか、また財政面に関しても同じことが言えると思います。

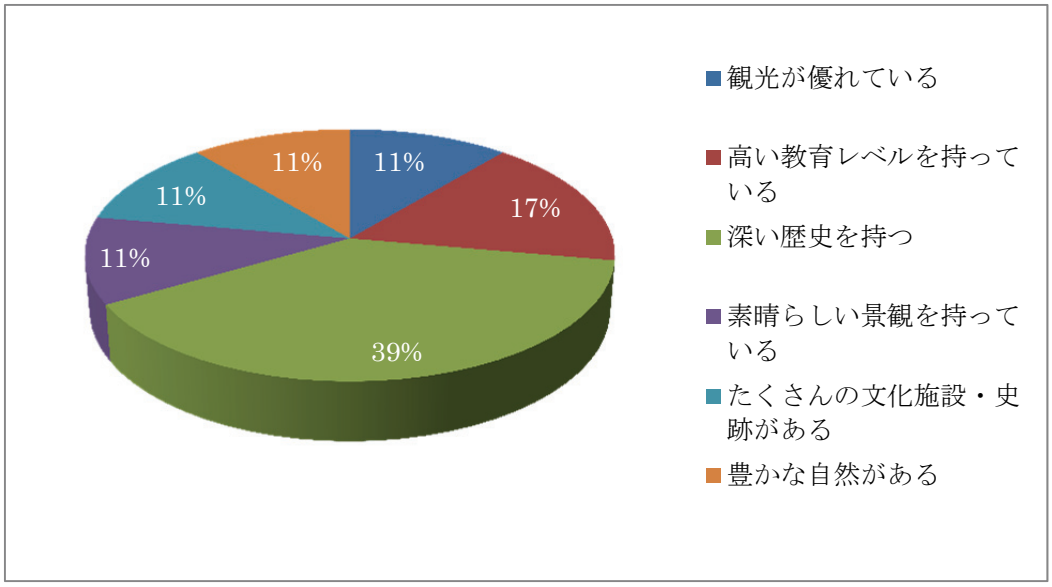
・太宰府市に住む住民が今後、人口に占める学生や高齢者比率が高くなり、財政が厳し

くなっていくのではないか不安を感じています。

・あまり商業地域がなく、地元商店街もほとんどない状態です。県道 31 号線周辺は幹線道路として発展していますが、県道 121 号線に関してはまだまだ開発の余地があると思います。

・太宰府天満宮におんぶに抱っこのイメージがあります。特に経済効果はそのように感じています。自然や歴史を多く残すまちとして、まちづくり・景観を大事にして欲しいです。

（2）太宰府市の特長




【太宰府市の特長に関する具体的なご意見】

・古来より国出先機関がおかれ、地域の中心として栄え、太宰府があったからこそ、今の地域の基本があると思います。

・高齢・幼少の市民も歴史や文化を重んじ、接する機会が多いので心の育成が出来ている気がします

・自然や学校が充実していて、生活環境も整っているまちだと思います。

・これだけ特長があるので、もっと行政が中心となり、市民や民間団体、または学校を巻き込んでさまざまな良い取り組みを行うべきではないでしょうか。

・太宰府市は、歴史のまちなだけに産業としては、太宰府天満宮を中心とした観光がメインですが、良い意味でも、悪い意味でも観光に依存しすぎていると感じます。

## 第５　那珂川町概況

人力のたやすく及ぶところにあらず
是皆神功皇后の時ほらせ給へる溝なるべし

那珂川町にある「裂田の溝」について、江戸中期に活躍した儒者貝原益軒が「筑前国続風土記」にて考証・観察を行っています。この裂田の溝は、新羅出兵の際に神宮皇后が神田に水を引くために掘らせたもので、約１６００年を経ても農業用水路として使い続けられており、神宮皇后の話とともに語られている貴重な土木遺産があります。

那珂川町の名称は、福岡市中心部を流れる河川として有名な那珂川からとったものであり、町の南部が那珂川の源流となっています。また、裂田の溝のエピソードから見られるように、那珂川町は水田が広がり、筑紫耶馬溪の川遊びや紅葉、南畑ダムでの釣り等、一年を通して自然豊かな地域でそれが魅力となっています。

人口は約５万人。東部は春日市、大野城市、筑紫野市と、南部は佐賀県、北部・西部は福岡市に接し、南部は三方を背振連山に囲まれ、おおむね楕円形で南高北低の渓谷型をなし、南北 14.5 ㎞、東西 6.2 ㎞、総面積は 74.99 ㎢の市形となっています。昭和 31 年 4 月 1 日、市町村合併促進法に基づき南畑村、岩戸村、安徳村が合併して現在の那珂川町が誕生しました。那珂川町は現在、筑紫郡で唯一の自治体です。

福岡都市圏の一部を構成し、福岡市に近い町北部の平地部ではベッドタウンとして都市化が進行していますが、大型商業施設はなく、福岡都市圏では数少ない空白地帯となっています。また、古くからの商店街や商店などが少なく活気がない等、産業の空洞化が課題と言えます。

交通の便ということでは、最寄りに博多南駅があるものの、駅自体は春日市内であり、那珂川町自体には鉄道もなく、その意味では決して良いとは言えませんが、反面町内全域、福岡市内を結ぶバス路線が充実しています。

最後に那珂川町町民憲章をご紹介します。

「那珂川町町民憲章」

・わたくしたちのまち那珂川町は、那珂川にはぐくまれ、自然に恵まれた、かぎりなく発展するまちです。
・わたくしたちは、この町の町民であることに誇りをもち、住みよいまちをめざし、ここに町民憲章をさだめます。

・自然を大切にし、水と緑の美しいまちをつくりましょう
・きまりを守り助け合う心豊かなまちをつくりましょう
・からだをきたえ健康で明るいまちをつくりましょう
・勤労を尊び暮らし豊かなまちをつくりましょう
・歴史遺産を守り文化の香りたかいまちをつくりましょう

（昭和５７年３月２８日制定）

■メンバーアンケート・那珂川町の課題と特長について

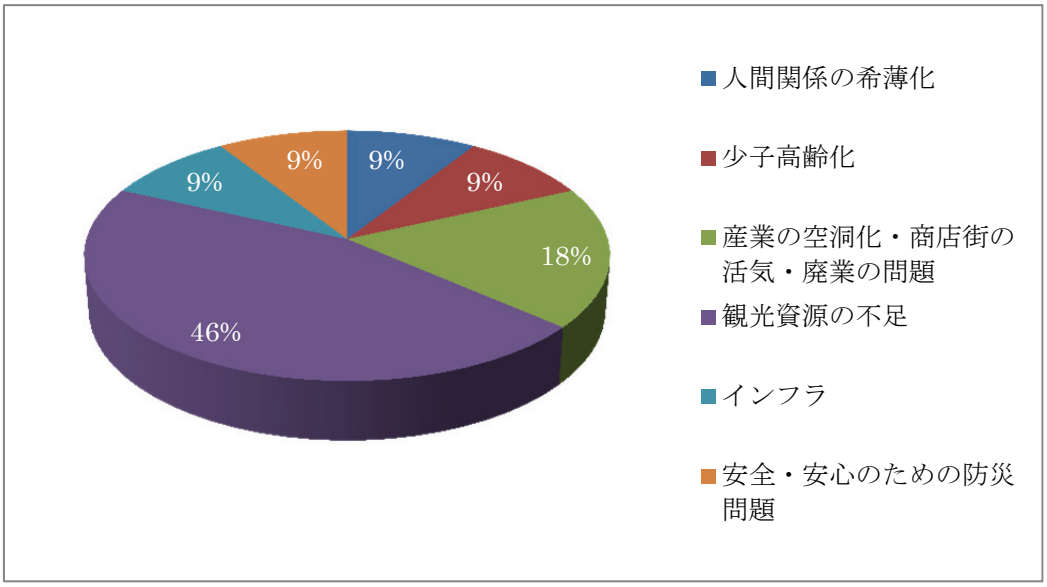
那珂川町に関しては、ここに在住するメンバーが残念ながらまだまだ少ないです。４市１町を活動エリアとするつくし青年会議所としては、広く地域との繋がりを保つために、より多くの同志を那珂川町から得る必要もあるのではないでしょうか。

那珂川町は広大な面積を擁しながら、未開発な土地が多く、インフラが整っていないということで、「発展途中」というイメージがあるのではないでしょうか。逆にいえば、白紙のキャンバスにいろんな色を塗るように、やり方次第で大きな発展をする可能性も秘めているのかもしれません。

地域にある多くの歴史的資源や豊かな自然等、まちの特長を適確にとらえ、広く社会に発信していくのがつくし青年会議所の役割のひとつといえます。

また、かつてつくし青年会議所においても４市１町の合併という課題が取り上げられ、これに向けて様々な事業が実施されましたが、様々な問題もあり、実現には至りませんでした。しかし、常に変化する激動の時代において、再度合併の話が持ち上がらないとも限りません。その時、つくし青年会議所がどのように行動するべきか、先輩方から受け継いだ資産が役立つことでしょう。

（１）那珂川町の課題



【那珂川町の課題に関する具体的なご意見】

・地域内でも中心より離れた地域で、人口も若干少なく、大きな産業がないという印象です。しかしながら、歴史的には多くの史跡があり、4市1町を循環するような交通インフラが整備されると人の流れも変わるので、これから発展の余地は大いにあると思います。

・福岡市との合併を望む声もあるということを聞いたことがありますが、つくし青年会議所の設立スローガンと現在の行政サービスを考えると早い段階で4市1町の合併問題を取り上げることも必要だと思います。

・生活インフラが整わないと、市民も取り込めない（減少するのでは）のではないかと懸念します。歴史的・観光名所もあるのに、観光というイメージが全くありません。

・福岡市のベッドタウンとなっています。住民の出入りが激しいと思います。

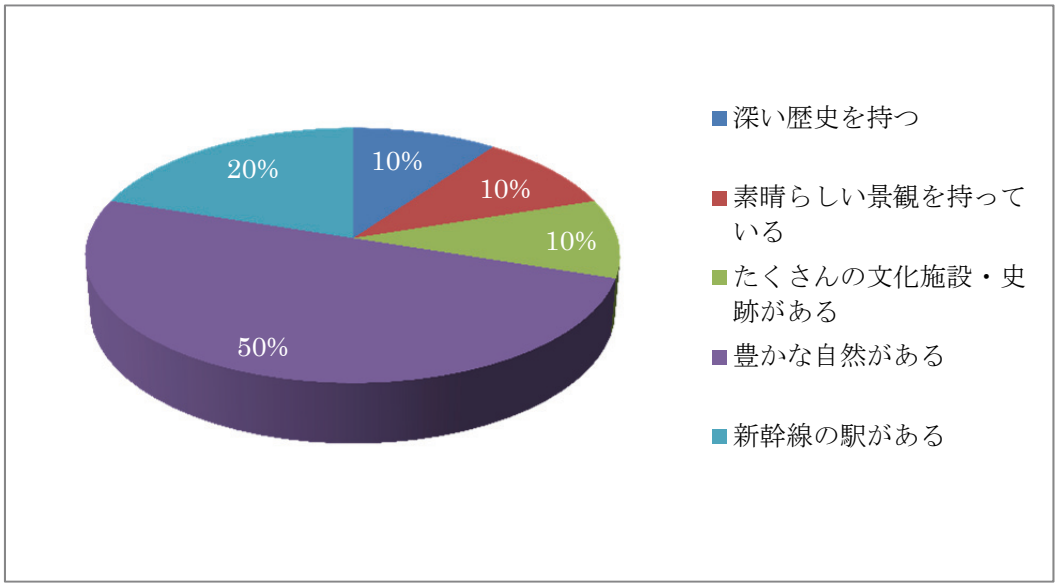
・歴史を中心としたまちおこしを行っていける町にならないといけないと思います。

・４市１町の唯一の町という行政区で田舎というイメージがあります。現実、山や川等の自然が多く残っており、これを上手く活用し、農業体験等、子供たちの体験学習の場を設けたりするといいのではないでしょうか。

・観光資源に乏しく、外部から立ち寄るかたが少ないと思います。そのため、商業・娯楽施設等の発展がありません。

・大雨による河川災害の対策が急務です。

（２）那珂川町の特長




【那珂川町の特長に関する具体的なご意見】

・豊かな「自然」が残るというイメージがあります。

・新幹線の駅があります。

・水が豊富にあります。
・住民の転入が少なく、転出が多いイメージがあります。
・公共交通機関は新幹線がありますが、バスを除けばそれのみで、陸の孤島になっています。
・豊かな自然があるのはいいが、山間部では人口の増加が見込めません。商業施設・住宅地の開発の推進等、自然と調和した開発が必要であると思います。

# 第２章　地域との歩み

## 第１　自然と歴史と人間の調和

### つくし地区都市概況（昭和４８年現在）

都より赴任して
　　やすみしわが大王の食国は
　　大和もここと同じと念う・・・

その昔、大宰師（だざいのそつ）として再び九州におもむいた大伴旅人が、この詩を詠んだ年７２７年よりさかのぼること２００年、わがつくしのくにの歴史は始まっている。

九州は大陸に近く、交流も古くから盛んに行われ、政治・外交の要衝であり、大和朝廷が那の津に力を用いた最大の理由は、大陸との関係の悪化にあったと伝えられている。従って、都府楼（大宰府町）も前提として那の津の沿岸に石城を築き、警固所（福岡）を置き、水城（大野城市）を造り、国防にあたっている。

一方、都府楼に隣接する二日市（筑紫野市）は、都街の中心となって、洛湯（武蔵温泉）の栄華を誇り、月のうち二日に市が立ち、その名を今日の二日市と呼称することになった。また、同じ頃、奈良の春日神社の分霊を迎えて、春日神社（春日市）に祀ったところから、同地名が誕生したと伝えられる。

このように、西暦５００年前後からの有史以前にも日本国家成立の前夜に、つねに先駆的役割を果たしてきたつくしの国があり、“筑前須玖（春日市）を踏ざるものは考古学を語る資格なし”とまで言われた縄文、弥生の前・中・後期の埋蔵遺跡の多い歴史的な土地柄でもある。

この豊かなつくしの地形は福岡平野と称し、面積２５０ｋ㎡東と南を限る三郡（さんぐん）背振（せふり）の両山地の山脚が博多湾に向かって求心的に伸び、その間を流れる多々良（たたら）御笠（みかさ）那珂（なか）室見（むろみ）の諸川が土砂をたい積し、それに、沿岸潮流の作用によってこの平野ができた。

その山ふところに、都府楼が位置している。現在２３０ｋ㎡余りの旧筑紫郡は、北九州の中枢管理都市として、このほど政令都市へと昇格した。人口９０万人の福岡市が位置し、そこを起点として、国道３号線、鳥栖有料道路につながる県道５号線、博多駅筑

紫口から直線的に春日市へ進入する筑紫通り、さらに５０年完成を目指す九州縦貫道水城インターチェンジと、それぞれの道路網がこの地区を縦断しており、それらは、県南久留米、熊本、あるいは、佐賀、長崎へと延びている。鉄道も、鹿児島本線、西鉄大牟田線が平行して、県南へ走っている。このめぐまれた立地条件と自然景観を誇るつくしは、背振山系からあふれる上質の水を貯える那珂川町、急激に住宅都市として発展する春日・大野城の両市、史跡と学園都市の大宰府町、そして商業と農業の併発を遂げる筑紫野市。それぞれの市、町が古い歴史の貴重な史跡と、豊かな自然を守りながら、新しい町づくりに努力している。

（日本青年会議所加入申請書より）

## われわれの発足の動機は

ところで、隣接する政令指定都市福岡を中心とする、広域都市圏内の未来地域として期待されている今日、その役割と性格とが、自ら変わらざるを得なくなってまいりました。人口増加率一つをとってみましても、県下第一を記録し、なお変貌のテンポは加速を加えています。このような状況下に、春日市、大野城市、筑紫野市の三市が単独市制施行として誕生となったことは、今後いっそう経済的、あるいは社会的に大きな変革をもたらす要因となるように思われます。

しかしながらこの時にあたり、新市誕生によって各地相互の間の交流が、今以上に疎遠になり、地区単位毎の閉鎖的、利己的意識が芽生えることを最も惧れます。もしこのような徴候が少しでも現れるとするならば、郷土の将来にかかわる経済的、社会的発展を甚だしく阻害することになりかねません。ここに高所的視野と広域的見地からの基本的構想の確立とその対策は焦眉の急であり、私たちは郷土を愛する者として、また次の世代を担わねばならない重大な責任と使命を持つ者として、これらの問題に積極的に取り組もうと志向します。

そこで私たちが描く夢を、より効果的に実現させるためには、まず多くの同士が共通の広場に相集い、お互に友情を深めながら、社会人としての修練を積み重ね、その中から具体的、総合的発想の英知を結集し、青年の情熱から生れる行動力を一つにして、私たちが住むべき地域社会はいうまでもなく、より広域的社会へ前向きに挑んでいきたいと考えます。これがつくし青年会議所の発想の動機でありました。

（つくし青年会議所設立趣意書より）

## われわれはこう考える

歴史はくり返す。

この言葉をいまほど痛切に感じることはない。

かつて、奈良朝から平安朝にかけてこのつくしの里は、朝廷第二の府庁として広く大陸に目をむけ文化的にも経済的にも、多くのかかわりあいをもってまいりました。先人たちは、アジアの中でのつくしの位置を正確にとらえながら、その文化をこの地より、日本各地に拡げていった。いわばつくしは、当時の文化のインターチェンジであり、日本とアジアの接点であったといえます。

このことを現在に置き換えて考えてみますとき、ときあたかも好転してまいりました中国との国交回復は、われわれに次代への参加をうながしているといえるようでもあります。しかるに政令都市・福岡市と隣接するつくしは、昼夜を問わず開発され、その建設の槌音は、聞く人の耳によっては、破壊の騒音とも聞こえましょうし、あるいは、輝かしい発展のファンファーレとも聞こえるでありましょう。いったい、豊かな自然と歴史を誇るつくしの里はこれからどう変遷していくのでありましょうか。

また、視角を変えると、一面のわれわれのつくしは、自然と歴史のあまりにも輝かしい重みの陰にいて、現代史の中には参加は遂げていません。開発といえば、自然や遺跡破壊と警鐘を鳴らされ、近代化といえば、公害はどうなると拒否されてまいりました。“開発と保存”“近代化と因襲”このことは、まさに日本の宿命、いや、この地域がある意味での縮図であろうかと思われます。ここに発想の根源をなす新しい価値体系を示し、調和の創造が望まれるのであります。

このつくしの人口増加一つを考えてみましても、古くから住む在郷の人と新しく移住してくる人々の波は、もはやその比較ではありません。旧筑紫郡は、今年三つの市が誕生したとはいえ、古い行政区画のラインは、厳然と今でも残っている。はたして、そのラインが総合的な地域開発にどのような影響をおよぼすものであるのか、多くの問題を残しているといえましょう。

それらを、先人たちがかつて大陸に目を向け、世界的な視野でつくしを観たことと合わせて考えますとき、将来のマスタープランに重大なものを欠くことになりはしないかと危惧して「つくしは一つ」の理念を掲げることにより、問題意識を拡大していく必要をわれわれは感じる。

行動するときは、今、迫っている。われわれの十分な準備を待たず、時代は目前を過ぎていきつつある。われわれは、慎重にして急がねばならない。つくしを愛し、つくしの中で生きていく地域住民とともに、明日のつくしを考えるために創り出された一つの方向が、このつくし青年会議所の理念であり、活動にほかならない。

（つくし青年会議所設立宣言文より）

## 第２　九州国立博物館との歩み

（１）九州国立博物館設置の歴史

博物館誘致の起源は、第３６代太宰府天満宮宮司である西高辻信厳らによって、明治６年（１８７３年）から８年（１８７５年）まで３度にわたり開催された「太宰府博覧会」まで遡ることができるそうです。その後、明治２６年（１８９３年）に太宰府博覧会の思想を受け継ぎ、太宰府の地に「鎮西博物館」設置を求める提唱がなされ、ときの政府から許可されましたが、日清戦争の勃発により、実現されませんでした。しかし、この思想は、後の岡倉天心（※）に受け継がれていくことになります。

明治３２年（１８９９年）２月７日、「日本美術院展覧会」のために福岡の地を訪れていた岡倉天心を福岡日日新聞（現西日本新聞社の前身）の記者が訪ねました。その取材の中で岡倉天心が「諄々として」説いたのは「九州博物館」設立構想だったそうです。「展覧会の目的は古美術保存と新美術発掘・振興だ。九州は古来外交の要衝で「宝什（ほうじゅう）」が多い。他地区の富豪の手に渡る前に九州各地の有志が奮起し、「当地」に九州博物館を建設するべきである」岡倉天心はこのように提唱しました。これが、九州国立博物館誘致の歴史の発端となり、以後、１００年以上にわたって、その誘致のために様々な運動が展開されていくことになります。

昭和４３年（１９６８年）には、福岡県における官民連携の誘致を目的とした組織として、国立九州博物館設置期成会が発足しました。これを受けて昭和４６年、西高辻信貞宮司が、福岡県に博物館建設用地 14 万㎡を寄贈しました（後に福岡県が 2 万㎡を追加購入し、現在の敷地面積は 16 万㎡）。

昭和６３年（１９８８年）、九州の官民連携組織として、九州国立博物館誘致推進本部が設置され、同年、国会に九州国立博物館設置促進国会議員連盟（二階堂進会長）、福岡県議会に九州国立博物館誘致対策調査特別委員会が発足し、誘致活動は九州全体の動きとなり、本格化しました。

平成４年（１９９２年）、同国会議員連盟、九州地方知事会、九経連、九州商工会議所連合会、九州経済同友会が国立博物館の「太宰府」への早期設置を決議、同年九州国立博物館設置促進財団が発足。

平成６年（１９９４年）、文化庁が「新構想博物館の整備に関する調査研究委員会」を設置。

平成８年（１９９６年）、文化庁が候補地を太宰府に決定。

平成１１年（１９９９年）、国、福岡県、財団の三者による九州国立博物館（仮称）の建設スキームが決定し、平成１２年には、同財団の募金活動が全国展開され、平成１６年（２００４年）に建設募金の活動が終了。博物館の建物工事費の一部が国へ寄附されました。

平成１７年（２００５年）４月１日、独立行政法人国立博物館（現国立文化財機構）が九州国立博物館を設置。

平成１７年（２００５年）１０月１５日、九州国立博物館開館（平成１７年（２００５年）１０月１６日、一般公開開始）。

※　岡倉天心（1863-1913）

日本の思想家、文人、哲学者。

福井藩の武家の子として横浜に生まれる。東京美術学校（現・東京藝術大学）の設立に大きく貢献し、また日本美術院を創設した。近代日本における美学研究の開拓者で、英文による著作での美術史、美術評論家としての活動、美術家の養成といった多岐に渡る啓蒙活動を行い、明治以降に於ける日本美術概念の成立に寄与した。

（２）つくし青年会議所のかかわり

古来より、このつくしの地は、大陸文化の窓口として様々な人々が行き交い、政治、経済、文化の中心地として発展してまいりました。まさしく、つくしの地はアジア文明のクロスロードとして、重要な役割を担っていたのです。このような歴史的背景において、この地に九州国立博物館が開館したことも、必然と言えるのではないでしょうか。

つくし青年会議所は設立１５周年（昭和６１年（１９８６年））において、この「つくしの地に国立博物館を！」と市民に呼びかけ、「九州アジア国立博物館ビジョン」を提言しました。これをきっかけとして、「市民に開かれた博物館」を合言葉にスミソニアンや故宮博物館の視察やシンポジウム等様々の国立博物館誘致運動を展開してまいりました。

そして、九州国立博物館の候補地が太宰府に決定し、これが実行に移された１９９９年、九州国立博物館オープン支援イベントとして、「つくしが唱うベートベン」と題し、筑紫地区４市１町の市民とともに第九「歓喜の歌」を大宰府政庁にて合唱しました。さらに、九州国立博物館開館直前の２００５年１０月、まさに開館準備中のエントランスホールにおいて、「つくしが奏でる夢の博物館」を開催し、いよいよつくしの地に国立博物館が開館することの大いなる喜びを「つくしが唱うベートベン」と同様、第九「歓喜の歌」の合唱で表現しました。

また、つくし青年会議所は、昭和６３年（１９８８年）に「九州アジア国立博物館を誘致する会」を設立しました。これは、つくし青年会議所が行っていた誘致運動が、地域住民を巻き込んだ市民運動へと高めることのできた代表例であるといえます。「九州

アジア国立博物館を誘致する会」は、市民運動が高まるにつれ、「九州国立博物館を支援する会」へと名称を変え、九州国立博物館が開館した後は「九州国立博物館を愛する会」となりました。

「九州国立博物館を愛する会」は、今も、つくし青年会議所と深い繋がりを持ち、諸先輩方とともに多くのメンバーがこれに関わっています。

九州国立博物館が開館して以降、私たちは博物館と地域とがどのように互いに連携し、その活性化に繋げていくべきなのかということに考えをシフトしていきました。２００６年の九州地区大会では、主会場のひとつとして九州国立博物館を選択し、九州各地の青年会議所のメンバーに対し、開館間もない九州国立博物館をお披露目し、ここで事業を行いました。また、筑紫ルネッサンス序章～九州国立博物館でこのまちを変える～、筑紫ルネッサンス第一章～九州国立博物館を中心としたまちづくりを考える～と題する事業を開催し、九州国立博物館を中心としたまちづくりについて、識者を交えながら、講演やシンポジウム、ワークショップをする等して議論し、つくし青年会議所としての考えを提言しました。

なお、その後、筑紫ルネッサンスは、九州国立博物館を中心としたまちづくりから世界遺産基準のまちづくりへと発展を遂げ、筑紫ルネッサンス第二章～文化遺産を活かしたまちづくり～、第三章～つくし文化遺産と世界遺産～、第四章～世界遺産登録への道～として、「大宰府政庁」「水城」「大野城」等、数多くの歴史的文化遺産が点在する筑紫地区の世界遺産登録について議論を重ねました。今後も、筑紫地区の世界遺産登録に関しては、つくし青年会議所における重要なテーマのひとつとなるでしょう。

我々は、九州国立博物館が日本では東京、京都、奈良に続いて４番目に開館した２１世紀最初の国立博物館であり、日本に４館しかない、他の地域にはない素晴らしい資源を持っていることを無駄にしてはなりません。地域の方々のみならず、日本全国、世界各国の方々に我々のまちにある新時代の「国立博物館」のことを知っていただきたい、見に来ていただきたい、ひいては、筑紫地区という地域のことをもっとよく知っていただき、地域の発展に繋げたい、そんな想いから、九州国立博物館に対する支援を現在も続けています。

## 第３　つくし青年会議所が行った事業

### （１）つくし青年会議所の事業の基本部分

つくし青年会議所では、これまで「青少年の育成」「国立博物館の設置」「地域主権」の３つの運動を基本として活動してまいりました。その後、社会情勢の変化や九州国立博物館の開館、公益法人制度改革関連３法の施行等に伴い、つくし青年会議所が行う事

業に関する基本部分は、やがて「まちづくり」と「ひとづくり」へと組み替えられていきました。

諸先輩方から受け継がれてきた精神を大切にしながら、新しいことに挑戦していく、まさに「不易流行」の精神に則って、我々は様々な事業を企画しています。ここでは近年の事業（３０周年以降）を紹介させていただきます。

２００１年（設立３０周年）
・筑紫地区小学生教材「ぼくたちわたしたちのまち　つくし」作成
・青少年国博体感の旅
・設立３０周年基調講演　「日本の可能性」石原伸太郎」東京都知事講演

２００２年
・筑紫地区４市１町行政職員アンケート
・４市１町教育委員会との座談会

２００３年
・地域創造推進フォーラム「描こう！未来予想図　語ろう！元気と夢のある我が地域」
・ゆかいに学びん舎 in つくし
・人間力セミナー「社会企業家ワークショップ」

２００４年
・こどもと大人でつくるつくし夢物語
・九州国立博物館推進募金活動

２００５年
・九州国立博物館開館記念　第九コンサートつくしが奏でる夢の博物館
・筑紫ルネッサンス 序章～九州国立博物館でこのまちを変える～

２００６年（創立３５周年）
・九州地区大会２００６ｉｎつくし
・筑紫ルネッサンス 第一章～九州国立博物館を中心としたまちづくりを考える～

２００７年
・九博から始まるこころの交流
・筑紫ルネッサンス 第二章～文化遺産を活かしたまちづくり～
・筑紫ルネッサンス 第三章～つくし文化遺産と世界遺産～

２００８年
・つくし寺子屋歴史塾
・筑紫ルネッサンス 第四章～世界遺産登録への道～

２００９年
・青少年育成事業　市民参加型ミュージカル「ハロー！天使です」
・グリーンフィールドプロジェクトｉｎつくし
・公開例会事業　正面から向き合う～コミュニケーション能力の構築～

２０１０年
・市民参加型ミュージカル「つくし路のむこうへ　～過去・現在・未来～」
・つくし御当地検定～九州国立博物館と４市１町の魅力再発見～

２０１１年（設立４０周年）
・市民参加型ミュージカル「つくしの空は晴れて」
・つくし寺子屋～歴史ある「つくし」から学ぼう！ぼくらの明るい未来のために～

２０１２年
・市民参加型ミュージカル　太宰府市制３０周年記念公演
「まほろば　～道は、つくしから始まる～」
・第２回つくし寺子屋～歴史ある「つくし」から学ぼう！
ぼくらの明るい未来のために～

（２）市民参加型ミュージカルと寺子屋

市民参加型ミュージカルは２００９年から数えれば２０１２年時点で４回目の実施となります。特に２０１０年以降はオリジナルストーリーを脚本し、地域に向けて魅力ある歴史と文化の発信と、参加者の人間的成長に寄与してきました。また、寺子屋の事業は２００８年に１度実施した後、折しもつくし青年会議所設立４０周年である２０１１年に記念事業として、規模を拡大し復活しました。こちらも参加する子どもたちの人間的成長に寄与する事業です。

市民参加型ミュージカルと寺子屋という対外事業は、「まちづくり」「ひとづくり」に関連する事業として、２０１１年と２０１２年のつくし青年会議所において、市民からの要望に応え、続けて実施された重要な事業であります。

ＪＣは単年度制でありますので、今後も継続してこの事業を実施するかどうかは、ときの理事長並びに三役もしくは委員長の考えによるところもありますが、この２つの事業が、現在のつくし青年会議所あるいは将来のつくし青年会議所において、重要な役割を担っていることは間違いありません。

それは、地域の歴史や文化を学んだり、人として必要なことを学んだり、参加した地域の子どもたちの成長のため様々な体験・体感をしていただきますが、それだけではなく、その保護者の方々をはじめとする様々なかたちで関わっていただいた地域の皆様に向けて、つくし青年会議所が地域のためにどんなことをしているのか、ということをご理解いただける大きな機会のひとつになった事業であるといえます。

双方ともに非常に大きな規模の事業であり、また長期間にわたり行うものでありますので、その内容を全てご紹介するのは非常に難しいところです。しかし、この事業は、近年のつくし青年会議所の事業を語るときに、避けて通ることのできない重要な事業となりますので、簡単ではありますが、２０１２年度に行われた双方の事業趣旨の概要をご紹介させていただきます。これをもって、現在、つくし青年会議者が地域のためにどのような事業をしているのか、ということをご理解いただければ幸いです。

最後に、つくし青年会議所はＪＣという組織の特徴として、単年度制であることから、毎年同じ事業を継続しているわけではなく、その年の地域の実情にあわせて、最適と思われる事業をいつも企画しています。私たちは、この市民参加型ミュージカルと寺子屋という２つの対外事業だけではなく、今後も地域の発展に資する良質の「まちづくり」や「ひとづくり」の事業を企画し、地域の皆様にもご参加いただきたいと考えております。

**・市民参加型ミュージカル　太宰府市制３０周年記念公演「まほろば　～道は、つくしから始まる～」事業趣旨の概要**

我々がこれまで様々な事業を行ってきた中で、ひとづくり事業の一環として過去３年間にわたり継続して「市民参加型ミュージカル」を開催しました。実際に出演された方はもとより、観劇された皆様より多くの賛同を得ることができ、さらには、歴史的文化遺産の豊富な筑紫地区の歴史的背景をシナリオに取り入れることで、郷土の歴史や文化をより知っていただくきっかけとなり、この地域に対

する愛着心の醸成にも繋がりました。

特に、出演した子どもたちにおいては、事業に携わった数ヶ月間で著しい成長を見せており、大きな教育的成果を収めた事業であると言えます。設立４０周年運動方針で掲げた「きょういく（教育・共育・郷育）」を推進していくことが必要であるという考えのもと、我々は再度開催することで同様の成果を期待すると共に、出演及び観劇を通して更に多くの方にこの事業を経験・認知していただきたいという想いから、本年も継続して「市民参加型ミュージカル」を開催する運びとなりました。

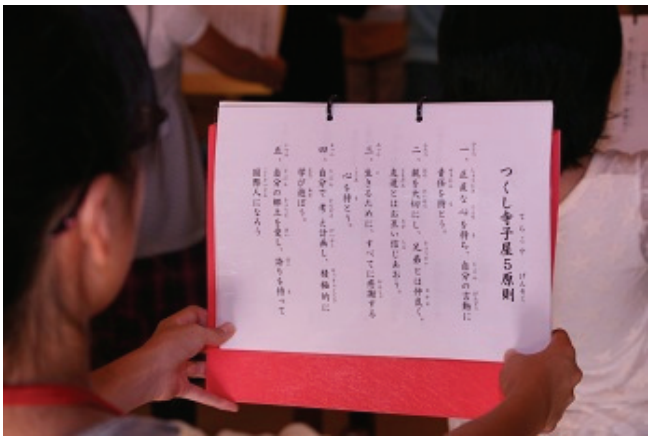
そして、この有意義な事業を今後も真に地域に求められる事業として残していくために、行政を含めた様々な地域関係者の協力・理解が必要不可欠と考え、それと同時に我々の大宰府に抱く想いにより、太宰府市と協力して、太宰府市制３０周年記念公演として市民参加型ミュージカルを開催致します。

このミュージカルは地域の子どもから大人まで幅広い世代の参加者を募り、筑紫地区の歴史的背景を題材として、郷土の歴史や文化をより知っていただくと共に、この地域に対する愛着や誇りを醸成する物語を発信いたします。事業の参加者及び関係者全員が稽古等を通じて、自ら進んで様々な困難を乗り越えることで積極的で前向きな精神を養い、また異なる年齢層の人たちや価値観の違う人たちとふれあい、共に１つの作品を創り上げることで友情や思いやり、連帯感を育んでいただくことを目的とします。また、参加者及び観劇者がミュージカルの内容を通して、郷土の歴史やそれを築いてきた先人たちの想いを知ることで、新たな魅力を発見し、この地域に対する更なる愛着心を持つことを目的とした事業です。

**・第２回つくし寺子屋～歴史ある「つくし」から学ぼう！ぼくらの明るい未来のために～事業趣旨の概要**

我々の住む筑紫地区（筑紫野市・春日市・大野城市・太宰府市・那珂川町）は美しい自然、豊かな文化、悠久の歴史を感じることができる土地です。それ故に、子どもたちは外で自然に触れ、仲間と遊ぶことで、それら地域の財というべきものを直接肌で感じることができました。

しかしながら、大型商業施設の増加など地域の都市化が進むにつれ、子どもたちが外で遊ぶ環境は少なくなり、その土地の歴史・自然に触れる機会も減少したため、地域と




子どもとの関わりが希薄になり、加えて地域自体も子どもの教育に携わる事が少なくなっています。また急速な情報化社会の進展により、携帯・パソコン等で家に居ながらにして必要な情報を得ることができるようになった反面、人と直に接する機会が減少し、子どもたちのコミュニケーション能力の低下を及ぼす結果になってきております。

さらには少子化に伴い、同年齢は元より異なった年齢の子ども達が集団で遊ぶ機会が少なくなり、団体行動の経験が不足してきております。そのため、子どもたちが地域において郷土愛、さらには社会で生きていく上で必要な社会性や倫理道徳観を養う機会が少なくなってきました。

そのような状況の中、我々青年会議所が率先して子どもたちに団体行動の機会を与えるとともに、地域の特性を活かした教育を行うこと、さらには子どもたちの教育に最も密接である家庭と連携し、日常生活においても継続的にその教育を行える家庭での環境を作ることで、子どもたちに対しては、先人が作り、守り、受け継いできた郷土の誇りや伝統を理解し、郷土や国のために尽くそうとする感謝の気持ちや思いやりの心を醸成することに繋がります。また、保護者に対しては、我々が住む土地の魅力を再確認するとともに、更なる愛着と誇りを醸成し、地域が行う教育の大切さを改めて実感し、子どもの教育に対する意識や責任感の向上を図ることができると考えております。

# 第３章　「きょういく」の推進

## 第１　設立４０周年運動方針

### （１）設立４０周年運動方針策定にあたり

つくし青年会議所は、２０１１年をもって設立４０周年を迎えました。この年、私たちは、これを記念すべく対外事業として、ミュージカルを通じて子どもと大人が一緒になってこれに参加し、もって互いに人間としての成長をすることを目的とした「市民参加型ミュージカル　つくしの空は晴れて～現在・過去・未来～」と友情・礼節・郷土愛・考える力をテーマとした講座により子どもたちが人間的成長と自立心を養うことを目的とした「つくし寺子屋」という非常に大きな事業を実施しました。

そして、さらに私たちは活動する４市１町の現状と課題を踏まえ、より明るく豊かなまちを築くべく、これからの１０年をつくし青年会議所がどのような目的をもって、どのように活動すべきかの指針として「設立４０周年運動方針」を策定しました。

いわば、私たちが理想とする１０年後の４市１町の姿を想い描いたもの言えます。

以下は、当時作成した「設立４０周年運動方針」という私たちの想いを原文のまま掲載させていただきます。この「設立４０周年運動方針」とその策定の過程を知らない新しいメンバーには、必ず一読していただき、諸先輩の想いを受け継いでもらいたいと考えています。

### （２）つくし青年会議所が目指す地域とは

私たちが活動エリアとするつくし地区（筑紫野市・春日市・大野城市・太宰府市・那珂川町）に目を向けてみると、福岡市という大都市に隣接することにより、空港や鉄道、幹線道路といったインフラが整備され生活面では非常に住みやすいまちとして、今なお人口が増加しています。その反面、少子高齢化や核家族化の進展により、隣組等といった地域コミュニティとの関わりや、昔ながらの地域の繋がりが以前に比べて希薄になって来ています。一方、この地域に興味がありながらも、学んでいくきっかけを掴めない住民の方がいることも事実です。これまでつくし地区に住んでいる人たちは勿論のこと、新たにつくし地区に住み始めた住民の方、きっかけを掴めない住民の方も、この地域の一員であるという意識を強く持ち、つくし地区の素晴らしい歴史や伝統を学び、継承していくことが求められています。

私たち社団法人つくし青年会議所は、これまでも継続して行ってきました「ひとづく

り事業」を基盤としながら、更に「きょういく（教育・共育・郷育)」に重点をおいて各種事業を推進していきます。

「きょういく（教育・共育・郷育)」とは例えば、

「教育」･･･ 社会の規範となる道徳心や他人を思いやる心などの人としての生き方を学ぶこと。大人たちも親としての在り方や子どもの様な柔軟性のある物事の見方を学ぶこと。

「共育」･･･ 家庭・学校・地域が連携し、一体となって子どもたちを育て、子どもと一緒に大人も育っていくこと。

「郷育」･･･ 地域に関心を持った人々や行政・各種団体と連携しながら地域を育てていくこと。

地域のことに関わる事で、地域のことに関心を持ち、地域住民の一人だという自覚を持ち、郷土に対する愛着と誇りを持ってもらうこと。その結果、他人や地域に対する熱く優しい想いを持った人財、いわゆる「日本人としての自覚や誇り」を持ち、そこから生まれる「グローバルな相互理解・共生」といった意識を持つ真の「つくし人」の育成に繋がって行くと考えるからです。

つまり「きょういく（教育・共育・郷育)」に特化し重点を置いた事業を行い「つくし人」を増やす事は、今まで以上に地域の事を考える人々の増加に繋がり、ひいては素晴らしいまちづくりに繋がって行きます。我々が目指す地域は、徳溢れる心を持つ住民が自立しながらもお互いに助け合い、地域に愛着と誇りを持ち、安心して暮らしていける素晴らしい地域です。

（３）提言

## 「人は地域の宝！人が人を創り、人がまちを育てる」

これからつくし地区が更により良い地域となる為に、まずは一人ひとりが自分自身の行いを律し社会の模範や人としての機軸といった道徳心を養い、過去から多くの事を学ぶことで「日本人としての自覚や誇り」を持った「つくし人」としての自覚と責任を持つ事が重要だと考えます。

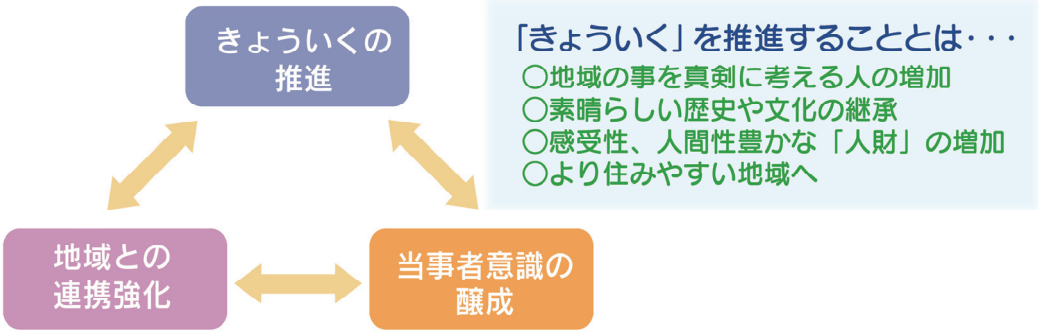
つくし人のアイデンティティである「相互理解と共生意識」を持った「人財」を育てていく事は、地域や他人に対して思いやりの心を持つ感受性豊かな「人財」や、人間性溢れる生活を送る為の生涯教育を通じて、地域の問題に対して当事者意識を持って関わり、自立と責任を持った行動をする「人財」を育て、地域の宝となる事につながります。

また、家庭と学校と地域の三者が連携し、大人も子どもも教え教わり、共に成長する為に、それぞれの立場で主体的に関わり、外で遊ぶ子どもたちの減少や体力の低下、幅

広い年齢層と一緒に活動する事が少ないといった近年の問題を踏まえ、人格形成や体力の向上を目指します。

更に郷土の特色ある歴史や文化、自然を学び郷土愛や誇りを醸成させ、自分達の子どもや孫の世代の為に、地域内の豊かな自然や歴史的遺産を保存継承する事、資源の少ない日本だからこそ、身の回りの生活圏の環境から今後の地球環境まで幅広く学び、省資源社会の実現を目指し、資源の大切さを理解し大事にする心を育てていく事など、様々な「きょういく（教育・共育）」事業を推進していきます。

そして地域や周囲との関わりや地域内の様々な問題に関心を持つ人々、そして新たに関心を持ち、関わるきっかけを掴んだ人々と共に連携し、行政や他団体との関係をさらに親密にしながら、住民目線で物事を考える事でこの地域をより素晴らしい地域にしていくために、共に郷土を育てる「きょういく（郷育）」を行ってまいります。



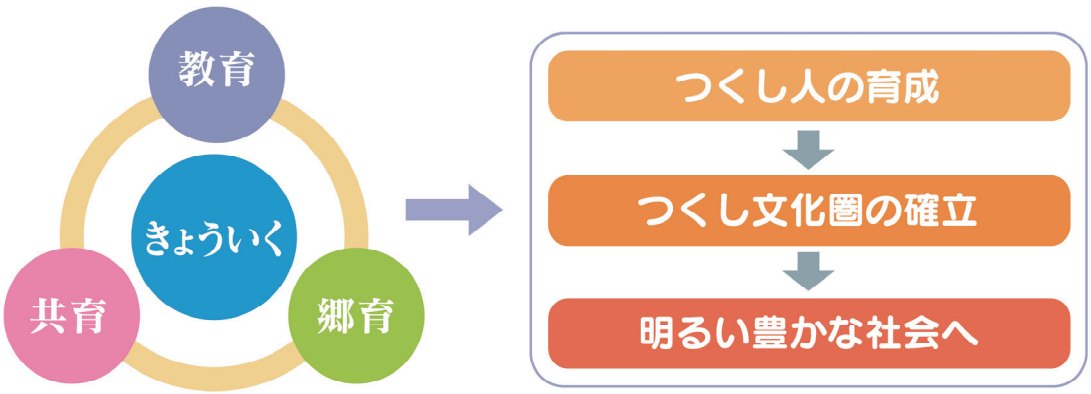

（４）設立４０周年運動方針

### 「きょういく（教育・共育・郷育）」を基にした「人財」の育成

・つくし人のアイデンティティを持った、感受性豊かな「人財」を育成します。
・家庭、地域、学校が連携し、一体となった「きょういく（教育・共育・郷育）」を推進します。
・地域の問題に当事者として関わりあえる「人財」を育成します。
・行政や他団体、地域を愛する人々と連携し地域を育てる「きょういく（郷育）」を推進します。
・地域の自然と歴史的遺産を後生まで保存継承します。
・自然と人間の調和する地域を目指し、自然や資源を大事にする心を醸成していきます。

「きょういく」とは、

大人も子どもも互いに教え教わり、共に成長して、多くの人々が連携し、手を取り合って共に地域を育てていく事です。その先導者として、社団法人つくし青年会議所は、行政や多くの他団体と連携し、活動・運動して参ります。




## 第２　つくし青年会議所の公益を目的とする事業の概要

（１）公益目的事業

つくし青年会議所は大きくわけて次の３種類の公益目的事業を実施します。公益目的事業とは、本来公益認定を受けた社団法人を対象としてなすべき公益を目的とした事業（２３種類の事業）のことをいいますが、もともとつくし青年会議所は公益を目的として設立された社団法人であることから、公益社団法人、一般社団法人にかかわらず、明確な目的をもって公益的事業を計画する必要があります。

そこで私たちは、つくし青年会議所がなすべき事業として「まちづくり」「ひとづくり」並びに通年ではありませんが、万が一の大規模災害に対し迅速な対応と支援ができるための事業「災害復興支援事業」の指針を掲げ、これに基づき活動していきます。

**①　公益目的事業１**

筑紫地区の特徴を踏まえ、その魅力や課題について調査研究、提言、体験等しながら市民の地域に対する愛着と誇りを醸成し、地域環境と市民意識の向上を図りながら、もって更なる地域の発展に寄与する事業（まちづくり事業）

**②　公益目的事業２**

筑紫地区の歴史や文化を礎とする相互理解と共生意識を持った人材の育成事業、並びに次代を担う青少年が夢と希望を持って自立と自己実現が出来るよう、その心身の健全な発達と豊かな人間性の涵養を図る青少年育成事業（ひとづくり事業）

**③　公益目的事業３**

大規模災害に起因した被災者及び被災地に対する支援活動

（２）公益目的事業１「まちづくり事業」の概要

①　趣旨・目的

筑紫地区は歴史、文化及び自然に関する資源が非常に豊富な地域です。我々はこの筑紫地区の資源的魅力や地域の課題について調査、研究するとともにこれを社会に向けて提言し、また地域の資源を活かした事業を市民の皆様に体験していただくことをもって、市民の地域に対する愛着と誇りを醸成するとともに、まちづくりに対する市民の自立心と主体性を確立させ、地域の発展を目指します。

②　具体的事業の内容

(1)　筑紫地区の歴史・文化振興事業

【事業内容】

筑紫地区における歴史や文化について学んだり、その魅力を体感していただけるよう当該歴史・文化遺産を巡る等して、市民に筑紫地区の魅力を再認識していただき、地域に対する愛着と誇りを持つことができるような様々な体験活動を実施します。

(2)　講座・セミナー事業

【事業内容】

地域の特徴に関する正しい理解を深めるほか、地域社会が抱える課題を洗い出し、その解決に向けた施策や、地域社会がより発展するための施策について学ぶため、講義やパネルディスカッション・セミナーを実施します。

(3)　調査研究・提言事業

【事業内容】

地域社会がより発展するための地域構想について調査研究を重ねていきます。また、これらの調査研究は、専門家の意見を聞きながら、必要に応じて資料作成及び報告書を作成します。

（２）公益目的事業２「ひとづくり事業」の概要

①　趣旨・目的

我々は、つくし人の育成を推進しています。この相互理解と共生意識を持った人材、社会を良くするための指導的役割を担う人材、国際感覚豊かな人材の育成を目指していきます。また、青少年においては、これらの育成ほか、将来、彼らが社会において自立と自己実現ができるよう「心の教育」と「生きる力」の育成を行います。

※「つくし人」とは

この地域の自然と歴史の恩恵をたえず認識し郷土愛にめざめ、この地域を次世代に受け継いでいくことを使命と考え、活き活きとまちづくりに関わり力強くはつらつと生きていく活力ある人々、また、当法人の名称「つくし」の名のとおり、人につくしてつくしてつくしきる人々、奉仕の心を兼ね備え、人につくして、自然につくして、心をつくして、人生そのものに一生懸命力の限り「尽くし切る」人々のこと。

②　具体的事業の内容

(1)　つくし人育成事業

【事業内容】

上記つくし人の育成という趣旨のもと、様々な体験事業を多く実施します。その内容は、筑紫地区の歴史や文化を学ぶもの、スポーツ、芸術等、多岐にわたります。子どもから大人を主体とする自主公演を実施することもあり、この事業により市民の人材育成とともに青少年の健全な心身の育成を図っています。

(2)　講座・セミナー事業

【事業内容】

当法人は地域住民や青少年が自主性と責任感を持ち、志高い人材になれるよう講座・セミナーを実施しています。なお、青少年を対象とする講座・セミナー事業においては、他の事業（体験事業や自主公演等）とともに実施することが多いです。

（２）公益目的事業３「災害復興支援事業」の概要

①　趣旨・目的

地震，津波等の天災や大事故等から発生した大規模災害について，募金活動や物的・人的支援等をすることで，被災者及び被災地の迅速な復旧に寄与することを目指していきます。

②　具体的事業の内容

(1)　募金活動

【事業内容】

被災者及び被災地の一日も早い復興に寄与するため，広く募金活動・義捐金活動を行い，被災自治体，現地で災害支援をする公益団体等，適切なところへ当該募金・義捐金を送り届けていきます。

(1)　物的・人的支援活動

【事業内容】

被災者及び被災地の一日も早い復興に寄与するため，幅広い物的・人的支援活動を行います。

# 第４章　地域の未来を見据えて

## 第１　つくし青年会議所が目指すもの

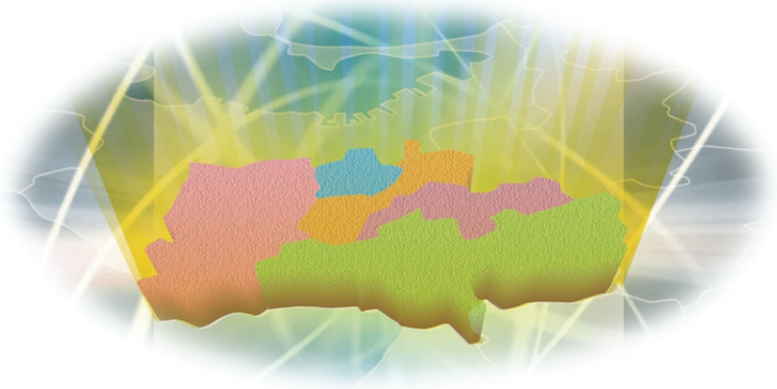
社団法人つくし青年会議所定款第３条において「本会議所は、地域社会及び国家の発展を図り、会員の連携と指導力の啓発につとめるとともに、国際的理解を深め、世界の繁栄と平和に寄与することを目的とする。」と定められています。この目的は、つくし青年会議所が公益社団法人に移行しても、一般社団法人に移行しても、受け継がれていくものです。

つまり、つくし青年会議所が究極的に目指しているのは、世界の繁栄であり、世界平和なのです。実際には、この目的の内容や特性として、こうなれば明確に達成できたと言うのは難しいと思いますが、毎年行っている様々な例会事業や対外的事業は、その目的を達成するための手段であるといえます。

少し大きな話となりましたが、私たちは定款第３条の目的を持って活動している団体であることを忘れてはなりません。私たちが地域の発展や人材育成等の社会貢献に努めるのもこのためなのです。

青年会議所は全国組織であり、全世界に存在します。一つひとつの青年会議所が活動する地域が自らの活動によって明るく豊かな社会になれば、老若男女すべての人々が笑顔になる、そんな未来を信じ、私たちは日々の活動を地道に行っているのです。

私たちがその活動エリアである筑紫地区において、常に素晴らしい事業を企画・実施することにより、地域を巻き込んでいくことができれば、地域住民一人ひとりの「公益」に対する意識変革をもたらしていくことでしょう。そして、その意識の輪がやがて日本や世界へと広がり、私たちの究極的な目的である世界の繁栄と世界平和に繋がっていくことを願っています。



## 第２　つくし未来構想　～描こう夢のつくし、そして繋げよう未来へ～

### ～つくし未来構想を策定するにあたり～

２０１２年度、私たちは「つくし未来構想～描こう夢のつくし、そして繋げよう未来へ～」と題し、筑紫地区のまちづくりについて、つくし青年会議所がどのように考えるのかという観点で、いくつかの事業を検討し、絵にしました。

これは、地域へのメッセージであると同時に未来のつくし青年会議所へのメッセージでもあります。これらの事業をどのように捉えるかに関しては、単年度制である青年会議所のもとでは、必ずしもこれに縛られる必要はありませんし、縛られてはならないとも言えます。ゆえに毎年、つくし青年会議所は様々な対外・対内事業を企画し、実施していますが、過去を振り返ってみると、企画されては実施に至らなかった、日の目を見なかった事業が数多くあるはずです。中には当時は諸事情により出来なかったけど、今ならできるといった事業もあるかもしれません。実は、これらの事業もつくし青年会議所にとっては大切なアーカイブであり、実施された事業と同じくらい貴重な財産といえるのではないでしょうか。

そして、事業として実施するかどうかは別にして、当時のつくし青年会議所が、筑紫地区の未来についてどのように考え、どのような夢を描いていたのか、ということを次世代に伝えていくことと、彼らがこの未来構想を見て、どんな小さなことでもインスピレーションを得て、素晴らしい事業を企画し、実施することを願っています。

あわせて地域には、これまで述べてきた４市１町の課題や特長を踏まえたうえで、明るく豊かな社会を実現するための事業の一方向性を地域の皆様にお示しすることができると考えています。

私たちが考える地域構想とは、必ずしも交通のインフラ、区画整備や企業誘致等の生活の利便性向上や経済発展だけを目的にしたものではありません。人と人との繋がりや心の育成、人としての成長を大切にしつつ、筑紫地区の特長でもある歴史、文化、自然をどう活かしながら地域の発展と成長に繋げていくのかということも含まれています。つまり、ひとづくりとまちづくりは、我々の考える地域構想においてどちらも欠かすことのできない要素なのです。

それは、我々が提言する相互理解と共生意識を持ったつくし人の育成に集約されるものであり、「きょういく（教育・共育・郷育）」を基にした「人財」の育成」を導くものであると考えます。

～描こう夢のつくし、そして繋げよう未来へ～

## 【 つくしコン・つくしの『まちびと』マッチング 】

近年、日本は少子化が急速に進んでいます。日本における最多出生数は約２７０万人（１９４９年）であり、この年を含む１９４７年から１９４９年の３年間で８００万人もの子供が出生しました。この世代は「団塊の世代」と呼ばれ、これまでの日本の政治・経済・文化を支えてきたといっても過言ではありません。しかし、最近の日本の出生数を見ると、毎年１００数万人と団塊の世代の出生当時に比べて半分にも満たない数になっており、早急の少子化対策が必要であると叫ばれています。

少子化の原因として一番に挙げられるのは出生率の低下ということになるのですが、その原因にあるのは女性の晩婚化・男女の非婚化の増加にあります。近年の調査では２５歳から３９歳の未婚率が男女ともに増加しているとの結果が出ています。そして、その背景には人間関係の希薄化があり、互いに干渉しない風潮が社会に蔓延してしまっていると言えるでしょう。

このまま生まれてくる子供が減少するということは、将来働く人の数が減少することということであり、地域経済や社会のあり方に重大な影響を及ぼします。現に少子化の影

響と思われる継承者不足から、伝統文化や伝統芸能が途絶えたり、商売を廃業せざるを得ないという問題が近年表面化するようになりました。

昔の日本の農村にはどこにでも「結」（ゆい）というものがありました。結とは労働力を対等に交換しあって田植え、稲刈りなど農の営みや住居など生活の営みを維持していくために共同作業をおこなうことです。古くは「十分の付き合い」や隣組も結の一種といえます。

このように古来より、日本人は相互扶助の精神を以って、互いに助けあい、互いに心配し合い、気をかけ合ってつつましく暮らしてきました。この日本人本来の姿を取り戻すためにも人とのつながりを　築ける場が必要だと感じています。

そこで、未婚の男女を対象に筑紫地区にある飲食店を会場として合同コンパを開催し、参加する男女の出会いや繋がりの場を提供するとともに、筑紫地区にある史跡を巡るバスハイクを行う等して、地域の歴史や文化を学び、参加者の郷土愛を育てる事業を考えました。もって、少子化問題の解消だけではなく、地域経済の活性化や魅力の発信によって、地域に貢献することができると思います。

## 【 つくし郷土かるた大会 】

昨今の地域社会の問題として、無秩序な開発に伴う自然破壊、景観破壊があり、郷土の歴史や文化の継承も忘れ去られようとしています。このような問題の原因のひとつとして、学校教育をはじめ、核家族化が進んでいる今日の生活スタイルの変化に伴い、郷土学習が希薄になっていることが挙げられます。

この郷土学習の希薄化を今後何もせず放置してしまうと、急速な少子高齢化と人口減少が進んでいるなか、将来、私たちが住む筑紫地区も若い世代の他地域への流出が起こり、結果、地域の過疎化や地域の経済の衰退に繋がる恐れがあります。先ずは若い世代を中心に郷土愛を醸成し、これらの問題を抑止していく必要があります。

つくし青年会議所には筑紫地区の歴史、文化、自然を題材とした「郷土かるた」があります。この「郷土かるた」を活用し、老若男女全てが参加できる「つくし郷土かるた大会」を開催します。

この大会を通じて、参加者には筑紫地区の歴史、文化、自然を理解していただくことができ、郷土を愛する心を醸成することができます。また、あらゆる世代の方々がいろんな形で参加することができますので、住民同士や世代間の交流に寄与することができます。

なお、「郷土かるた」は、必要な方々に販売したいと考えています。これが「郷土かるた」の趣旨と目的をさらに多くの人々に理解していただく機会となり、地域住民のさらなる郷土愛を醸成できると確信します。

## 【 特別展覧会～九博で感じる自然の大切さ～ 】

この事業は筑紫地区４市１町の地域をまるごと展覧会会場に見立て、九州国立博物館を中心に様々な場所で様々なイベントを開催するものです。例えばある春日市のある場所ではコンサートを開催し、那珂川町のある場所ではグルメ大会が行われたりして、地域の人々に楽しんでいただきます。

また、スタジオジブリやディズニー等のような、世界的に有名な夢のある企業とコラボレーションし、キャラクター等のコンテンツを利用して、自然の大切さを教えたり、自然をテーマにした展覧会を開催したりすることも考えています。そうすることによって、子どもから大人まで楽しめますし、地域の活性化にも繋げることができると確信しています。

筑紫地区は新興住宅地が多く他地区で育った人や家庭が少なくありません。「この日は筑紫地区のどこかで何かがやっている」という事業を実施することにより、多くの人々の参加を期待することができますので、人と人との結びつきも強くなり、古くからある人々、新しく住み始めた人々との交流も期待することができます。さらには筑紫地区の歴史や魅力等について知っていただく機会ともなり得ます。

# 第５章　つくしまちづくり資料

## 筑紫野市

〔場所〕

| 【施設等】 | 【公園等】 | 【観光名所・旧跡等】 |
|---|---|---|
| 筑紫野市民図書館<br>筑紫野市文化会館<br>筑紫野市歴史博物館<br>（ふるさと館ちくしの）<br>筑紫野市陸上競技場<br>カミーリヤ<br>二日市コミュニティセンター | 筑紫野市総合公園<br>山家スポーツ公園<br>山神キャンプ場<br>竜岩自然の家<br>天拝湖公園<br>山神ダム公園 | 二日市温泉<br>天拝山<br>天拝湖<br>九州自然歩道基山コース<br>武蔵寺<br>正行寺<br>筑紫神社<br>二日市八幡宮<br>御自作天満宮<br>山家宝満宮<br>五郎山古墳館<br>万葉歌碑<br>高取焼<br>天判山城跡（武蔵）<br>長崎街道冷水峠越<br>（歴史の道百選）<br>鉄砲用水（柚須原～本導寺）<br>筑前・筑後国境石（西小田） |

〔教育機関〕

| 【小学校】 | 【中学校】 | 【高等学校】 |
|---|---|---|
| 阿志岐小学校<br>天拝小学校<br>原田小学校<br>二日市小学校<br>二日市北小学校<br>二日市東小学校<br>吉木小学校<br>山口小学校<br>筑紫小学校<br>筑紫東小学校<br>山家小学校 | 筑紫野中学校<br>筑紫野南中学校<br>筑山中学校<br>二日市中学校<br>天拝中学校<br>リンデンホールスクール中高学部 | 筑紫高等学校<br>武蔵台高等学校<br>九州産業大学付属九州産業高等学校<br>福岡常葉高等学校 |

〔文化〕

| 【文化財等】 | 【祭事・催事】 |
|---|---|
| 〔国の史跡・特別史跡〕<br>塔原塔跡<br>阿志岐山城跡<br>基肄城跡<br>五郎山古墳<br><br>〔県の史跡〕<br>武蔵寺跡<br>山家宿西構口並びに土塀<br><br>〔市の史跡〕<br>山家宿郡屋跡<br>山家宿大庄屋役宅跡<br>山家宿下代跡地<br>高橋紹運首塚伝承地<br>杉塚廃寺跡<br>大宰府坊跡朱雀大路<br><br>〔国の有形・無形文化財〕<br>隈・西小田遺跡群出土品<br>旧九州鉄道城山三連橋梁<br><br>〔県の有形・無形文化財〕<br>隈・西小田地区遺跡群甕棺墓出土品<br>紙本著色武蔵寺縁起<br><br>〔市の有形・無形文化財〕<br>武蔵寺「古石塔」<br>武蔵寺「自然石梵字板碑」<br>武蔵寺経塚群出土品<br>山家宿場郡屋土蔵<br>牛島地蔵石仏<br>木造十二神将像<br>岡田阿弥陀三尊板碑<br>紙本著色山家御茶屋指図<br>山家岩戸神楽<br>筑紫神社粥占行事及び粥鉢一口<br><br>〔県の天然記念物〕<br>立明寺のタブノキ<br>武蔵のイヌマキ群)<br><br>〔市の天然記念物〕<br>長者の藤<br>二日市八幡宮神木の公孫樹<br>平等寺エヒメアヤメ | 筑紫神社・粥卜祭り（2 月）<br>藤まつり（4 月）<br>武蔵寺・うり封じ（7 月）<br>うし湯（7 月）<br>天拝山観月会（旧暦 8 月 15 日）<br>二日市八幡宮神幸式・稚児行列（10 月）<br>山家宝満宮・山家岩戸神楽（10 月）<br>いきいき商工物産フェスタ（11 月） |

# 春日市

〔場所〕

| 【施設等】 | 【公園等】 | 【観光名所・旧跡等】 |
|---|---|---|
| 航空自衛隊春日基地<br>陸上自衛隊福岡駐屯地<br>春日駐屯地（自衛隊病院）<br>クローバープラザ<br>県営春日公園野球場 | 白水大池公園<br>春日公園<br>諸岡川親水緑道<br>天神山公園<br>奴国の丘歴史公園 | 「春日公園とお宮の道」<br>春日公園<br>春日神社<br>三郎天神<br>九郎天神<br>地禄天神<br>上の地蔵<br>下の地蔵・<br><br>「奴国ロマンとナギの道」<br>奴国の丘歴史公園<br>熊野神社<br>老松神社（上の宮）<br>老松神社（中の宮）<br>地禄天神<br>須玖岡本遺跡（国の史跡）<br><br>「その他の観光名所・旧跡等」<br>奴国の丘歴史資料館<br>筑紫楽所<br>水城寺<br>白川伯王益寿稲荷神社<br>白水大池の樋<br>（上白水・下白水）<br>九州飛行機株式会社雑餉隈工場跡 |

〔教育機関〕

| 【小学校】 | 【中学校】 | 【高等学校】 | 【大学・短期大学】 |
|---|---|---|---|
| 春日小学校<br>春日原小学校<br>春日野小学校<br>春日東小学校<br>春日西小学校<br>春日南小学校<br>春日北小学校<br>日の出小学校 | 春日中学校<br>春日野中学校<br>春日東中学校<br>春日西中学校<br>春日南中学校<br>春日北中学校 | 春日高等学校 | 九州大学筑紫キャンパス<br>精華女子短期大学 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 須玖小学校<br>天神山小学校<br>大谷小学校<br>白水小学校 | | | |

〔文化〕

| 【文化財等】 | 【祭事・催事】 |
|---|---|
| 〔国の史跡・特別史跡〕<br>須玖岡本遺跡<br>大土居防塁跡<br>天神山防塁跡<br>日拝塚古墳<br><br>〔県の史跡〕<br>ウトグチ瓦窯跡<br><br>〔市の史跡〕<br>赤井出古墳<br>竹ヶ本古墳<br>下白水大塚古墳<br>原遺跡<br><br>〔国の有形・無形文化財〕<br>銅鉾鎔笵<br>中広銅戈<br>春日の婿押し<br><br>〔市の有形・無形文化財〕<br>王墓の上石<br>須玖岡本遺跡 D 地点出土銅鏡<br>銅矛・銅剣<br>金製垂飾付耳飾<br>漢式鏃<br>鉄矛<br>松添遺跡　後漢鏡片<br>戦国式系銅剣<br>天神ノ木遺跡　後漢鏡片<br>土製狛犬<br><br>〔県の天然記念物〕<br>春日の杜（樟）<br>春日神社のセンリョウ叢林<br><br>〔市の天然記念物〕<br>オオバヤドリギ<br>えんじゅ | 春日の婿押し（1 月）<br>あんどん祭り（8 月） |

# 大野城市

〔場所〕

| 【施設等】 | 【公園等】 | 【観光名所・旧跡等】 |
|---|---|---|
| まどかぴあ<br>南コミュニティセンター<br>中央コミュニティセンター<br>北コミュニティセンター<br>（夏季のみ市民プール開放）<br>東コミュニティセンター | 大野城いこいの森公園<br>大野城総合公園<br>（まどかパーク）<br>仲畑中央公園<br>つつじヶ丘近隣公園<br>光ヶ丘近隣公園<br>三兼池公園<br>大文字公園 | 大野城いこいの森<br>平野神社<br>筒井の井戸<br>黒男神社<br>御陵宝満神社<br>牛頸不動城跡<br>牛頸用水路<br>大野村消防組第二部格納庫<br>郡境界標 |

〔教育機関〕

| 【小学校】 | 【中学校】 | 【高等学校】 | 【大学・短期大学】 |
|---|---|---|---|
| 大城小学校<br>大野小学校<br>大野北小学校<br>大野東小学校<br>大野南小学校<br>大利小学校<br>下大利小学校<br>月の浦小学校<br>平野小学校<br>御笠の森小学校 | 大野中学校<br>大野東中学校<br>大利中学校<br>御陵中学校<br>平野中学校 | 筑紫中央高等学校 | 九州大学筑紫キャンパス<br>専修学校 |

〔文化〕

| 【文化財等】 | 【祭事・催事】 |
|---|---|
| 〔国の史跡・特別史跡〕<br>水城跡<br>大野城跡<br>牛頸須恵器窯跡<br><br>〔県の有形・無形文化財〕<br>竹田家所蔵文書<br>木造聖観音立像<br>筒井の井戸<br><br>〔市の有形・無形文化財〕<br>貸布<br>人面墨書土器 | おおの山城大文字まつり |

| | |
|---|---|
| 移動式竈<br>三角縁神獣鏡<br>和銅六年銘ヘラ書き須恵器<br>道標石<br>郡境界標<br>絵馬<br>高原家所蔵文書<br>御笠の森<br>染原家所蔵文書<br><br>〔市の天然記念物〕<br>センダンの木<br>御笠の森<br>薬師の杜 | |

# 太宰府市

〔場所〕

| 【施設等】 | 【公園等】 | 【観光名所・旧跡等】 |
|---|---|---|
| 中央公民館<br>市民図書館<br>いきいき情報センター<br>保健センター<br>体育センター<br>女性センター ルミナス<br>総合福祉センター<br>（財）文化スポーツ振興財団<br>九州国立博物館<br>アジア文化交流センター<br>大宰府展示館<br>太宰府館<br>文化ふれあい館 | 梅林アスレチックスポーツ公園<br>歴史スポーツ公園<br>史跡水辺公園（市民プール）<br>大佐野スポーツ公園<br>北谷運動公園<br>少年スポーツ公園<br>通古賀近隣公園<br>佐野近隣公園 | 太宰府天満宮<br>竈門神社<br>戒壇院<br>岩屋城跡<br>国分尼寺跡<br>苅萱の関跡<br>王城神社<br>榎社<br>光明禅寺（苔寺）<br>僧玄昉の墓<br>万葉歌碑（25 基）<br>般若寺跡<br>衣掛天神<br>石穴神社 |

〔教育機関〕

| 【小学校】 | 【中学校】 | 【高等学校】 | 【大学・短期大学】 |
|---|---|---|---|
| 太宰府小学校<br>水城小学校<br>水城西小学校<br>太宰府南小学校 | 学業院中学校<br>太宰府中学校<br>太宰府西中学校<br>太宰府東中学校 | 太宰府高等学校<br>福岡農業高等学校<br>筑紫台高等学校<br>筑陽学園高等学校 | 九州情報大学<br>筑紫女学園大学<br>福岡医療福祉大学<br>日本経済大学 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 太宰府西小学校<br>国分小学校<br>太宰府東小学校<br>リンデンホール小学校 | 筑陽学園中学校 | | 福岡国際大学<br>筑紫女学園短期大学<br>福岡こども短期大学<br>福岡女子短期大学 |

〔文化〕

| 【文化財等】 | 【祭事・催事】 |
|---|---|
| 〔国宝〕<br>梵鐘（観世音寺）<br>翰苑巻第卅<br>刀・金象嵌銘正宗本阿（花押）本多中務所持（名物中務正宗）<br><br>〔国の史跡・特別史跡〕<br>大宰府政庁跡<br>観世音寺境内および子院跡附老司瓦窯跡<br>大宰府学校院跡<br>筑前国分寺跡<br>国分瓦窯跡<br><br>〔県の史跡〕<br>宮ノ本遺跡<br>横岳崇福寺跡<br><br>〔市の史跡〕<br>陣ノ尾１号墳<br>内山辛野遺跡<br>般若寺跡<br><br>〔国の有形・無形文化財〕<br>太宰府天満宮末社志賀社本殿<br>太宰府天満宮本殿<br>太宰府天満宮文書<br>七重塔（石塔）<br>多宝千仏石幢<br>木造仏像（伝薬師如来坐像）<br>木造阿弥陀如来坐像他観世音寺所蔵の仏像等<br>銅戈鎔笵<br>小早川家文書（三百六通）<br><br>〔県の有形・無形文化財〕<br>観世音寺金堂及び講堂<br>天満宮の石造鳥居及び石造燈籠<br>戒壇院本堂及び鐘楼<br>北野天神縁起 | 鬼すべ・鷽替え（1 月）<br>門前まつり（2 月～3 月）<br>曲水の宴（3 月）<br>梅上げ（還暦祝）（3 月）<br>九州自然歩道を歩こう会（3 月）・<br>ルミナスフェスタ（3 月）<br>文化協会　春の祭典（5 月）<br>飛梅ちぎり（6 月）<br>花菖蒲コンサート（6 月）<br>七夕まつり（7 月）<br>市民吹奏楽団演奏会 in 国立博物館（7 月）<br>太宰府古都の光（9 月）<br>千灯明（9 月）<br>太宰府市民政庁まつり（10 月）<br>戦没者慰霊祭（10 月）<br>環境フェスタ in 太宰府（11 月）<br>市民文化祭（11 月）<br>筑紫美術協会展（11 月）<br>市民ペタンク大会（11 月）<br>市民吹奏楽団クリスマスコンサート（12 月）<br>観世音寺・戒壇院ライトアップ（年末年始）<br>神幸式大祭（通称: どんかん） |

| | |
|---|---|
| 絹本著色一遍上人画像<br>太宰府天満宮飛梅柵擬宝珠<br>銅製麒麟、鸞、神牛<br>滑石硯<br>太宰府天満宮神幸行事<br>竹の曲<br>鬼すべ<br><br>〔市の有形・無形文化財〕<br>相輪樑<br>木造鑑真和上坐像、後屏、牀座共<br>銅製経筒経巻共附陶製外容器<br>宮ノ本丘陵古代墓地出土品<br>文明拾八年銘梵字板碑<br>獣帯鏡<br><br>〔国の天然記念物〕<br>太宰府天満宮のクス 3本<br>太宰府天満宮のヒロハチシャノキ<br><br>〔県の天然記念物〕<br>天神の森（樟）<br><br>〔市の天然記念物〕<br>晴明井のエノキ<br>地禄神社のイチイガシ<br>若宮神社の杜<br><br>〔太宰府市民遺産〕<br>太宰府の木うそ<br>八朔の千燈明<br>かつてあった道（四王寺山の太宰府町道） | |

## 那珂川町

〔場所〕

| 【施設等】 | 【公園等】 | 【観光名所・旧跡等】 |
|---|---|---|
| ミリカローデン那珂川<br>那珂川町民体育館<br>那珂川町福祉センター<br>那珂川町公民館<br>エコピアなかがわ（不燃物処分場） | 中ノ島公園<br>昭和の森・西畑運動公園<br>丸の口古墳公園<br>安徳近隣公園 | 光明の滝<br>釣垂峡（筑紫耶馬渓）<br>南畑ダム<br>猫城跡<br>裂田の溝<br>裂田神社 |

| | | |
|---|---|---|
| 那珂川町保健センター<br>恵子児童館<br>恵子教育集会所<br>農村婦人センター<br>那珂川町勤労青少年ホーム<br>那珂川町部落解放センター | | 日吉神社<br>伏見神社<br>現人神社<br>観音山古墳群<br>中原古墳群<br>現人橋<br>妙見の瀧 |

〔教育機関〕

| 【小学校】 | 【中学校】 | 【高等学校】 |
|---|---|---|
| 南畑小学校<br>岩戸小学校<br>岩戸北小学校<br>片縄小学校<br>安徳小学校<br>安徳北小学校<br>安徳南小学校 | 那珂川中学校<br>那珂川南中学校<br>那珂川北中学校 | 福岡女子商業高等学校 |

〔文化〕

| 【文化財等】 | 【祭事・催事】 |
|---|---|
| 〔国の史跡・特別史跡〕<br>安徳大塚古墳<br><br>〔町の史跡〕<br>丸ノ口古墳群２号墳、５号墳、８号墳<br><br>〔県の有形・無形文化財〕<br>伏見神社の祇園祭・岩戸神楽<br><br>〔市の天然記念物〕<br>ヒノキシダ<br>エノキ<br>ギンモクセイ<br>オガダマ<br>ヤマモモ<br>モチノキ<br>アセビ<br><br>〔町の天然記念物〕<br>イチョウ | 観音山大徳寺の金生神祭り（1 月）<br>ほうげんきょう（1 月）・<br>観音山節分護摩たき祭り（2 月）<br>高津神社の祭り（2 月）<br>安徳宮の天皇さまごもり（4 月）<br>大山祇神社（西畑）の春ごもり（4 月）<br>十六神社の春の祭典（4 月）<br>弁財天祭り（5 月）<br>水もらいごもり（6 月）<br>伏見神社の祇園祭・岩戸神楽（7 月）<br>（福岡県無形文化財指定）<br>不入道観世音の灯篭祭り（7 月）<br>輪越し（7 月）<br>八龍神社盆綱引き（8 月）<br>まつりなかがわ（8 月）<br>現人神社おくんち（10 月）<br>商工まつり（10 月）<br>伏見神社・大山祇神社の火たきこもり（11 月）<br>地禄天神社の祭り（11 月）<br>那珂川町民文化祭（11 月）<br>中山間ふるさとまつり（11 月）<br>毘沙門天祭り（12 月）<br>地禄天神社の火たきこもり（12 月）<br>厄神様の祭典（12 月） |

# おわりに

*地域の皆様に向けて*

本構想を策定するにあたり、つくし青年会議所が素晴らしい事業を行っていくためには、もっと地域のことを知らなければならないと考え、筑紫地区４市１町の課題と特長を捉えることからはじめました。地域のことをより深く理解することが出来れば、真に地域に必要とされる効果的な事業を行うことができるはずと考えます。

また、地域の皆様にはもっとつくし青年会議所という団体のことも知っていただきたく、つくし青年会議所のこれまでの歴史や事業を紹介させていただきました。その具体的内容につきましては、本構想第２章「地域との歩み」に記載しておりますので、是非ご覧いただきたいと思います。

私たちは社会起業家の集まりとして、地域のために様々な事業を展開し、地域の発展に貢献したいと考えております。つくし青年会議所は、地域社会で生活する方々が安心して暮らすことができ、人が人として幸せに生きることのできるあたりまえの社会「明るく豊かな社会の実現」を構築するために日々活動しています。

*メンバーに向けて*

既にご卒業されたある先輩が現役のとき、例会の場においてメンバーに質問しました。

「ＪＣにおいて一番大事なことは何か？」

当時、会場にいたメンバーは答えることができませんでしたが、ＪＣとして、またひとりのＪａｙｃｅｅとして一番大事なことは「積極的変化を求める」ことだと教えられました。そして、２０１２年度全国大会において公益社団法人日本青年会議所井川直樹会頭は、「ＪＣとは積極的変化を求める団体である。社会から必要とされる団体として常に積極的変化を求めていくべき」である旨を述べられました。

現在、青年会議所を取り巻く環境は、かつてないほど目まぐるしく変化しています。２００８年１２月、公益法人制度の改革がなされたことに伴い、地域からより質の高い事業を求められる一方、単年度制である青年会議所がどのようにその要望に応えていくべきかということを考えていかなければなりません。

地域から求められ、必要とされるつくし青年会議所であるために、自ら率先して変化を創造する、それは地域社会だけではなく、青年会議所自身も時代の変化にあわせて変わっていかなければならないことを意味しています。

*最後に*

この「つくし未来構想」は、筑紫地区の地域構想をまとめたものであると同時に、ひとつの資料としての側面も併せ持つようにさせていただきました。是非一読していただき、あらゆる面で活用していただければ幸いです。

発行／2012 年 12 月 20 日
社団法人つくし青年会議所
２０１２年度理事長　松大路信潔

作成／「つくし構想」戦略会議
議長　安田慶泰
友石淳
納富徹
石井大治郎
西高辻信宏
矢ケ部陽一
木村泰介
石橋信宏
井上陽介
白濱孝一朗
鶴田奈津輝
黒川宗人
山崎剛史
落合真吾

【お問合わせ先】
〒818-0058　福岡県筑紫野市湯町３丁目２番５号
TEL／092-924-8338　FAX／092-921-2906
ホームページアドレス　http://www.tsukushi.or.jp
メールアドレス　info@tsukushi.or.jp